



2024



活動報告



[002](#)

服部国際奨学財団 理事長 挨拶

[003](#)

役員メッセージ

[007](#)

服部奨学生インタビュー

[011](#)

服部奨学生紹介

[015](#)

2024 年度公式行事・イベント一覧

[017](#)

2024 年度服部奨学金授与式・2024 年度第 1 回服部奨学生研究発表会

[019](#)

2024 年度 第 1 回～第 3 回 株式会社ユー・エス・エス見学会

[021](#)

2024 年度第 1 回研修旅行 岐阜

[023](#)

2024 年度文化講演会・2024 年秋季服部奨学金授与式

[025](#)

2024 年度第 2 回研修旅行 愛知

[027](#)

2024 年度第 3 回研修旅行 東京・2024 年度関東地区服部奨学生研究発表会

[029](#)

関西 Alumni 会・2024 年度関西地区服部奨学生研究発表会

[031](#)

2024 年度修了式・2024 年度第 2 回服部奨学生研究発表会

[033](#)

中部 Alumni 会・2024 年度修了式懇親会

[034](#)

服部 Alumni メッセージ

[035](#)

東日本大震災被災地視察研修座談会

[041](#)

服部奨学生 2024 年度活動実績

[051](#)

公益財団法人服部国際奨学財団 役員名簿



服部国際奨学財団は、“経済的支援を通じて、優秀な外国人留学生を支えたい”という信念から、2008 年に株式会社ユー・エス・エス創業者、服部 太が設立しました。そして 2012 年、前年の東日本大震災による甚大な被害を目の当たりにし、震災で経済的な被害を受けた日本人学生に対する支援を開始いたしました。

東日本大震災は、当財団が日本人大学生・大学院生への支援を始める契機となりました。そして 2024 年 8 月には、服部奨学生が被災地を訪れ、震災当時の状況や復興の歩みを肌で感じるとともに、服部財団の歩みを振り返る視察研修を実施いたしました。この視察を通じて服部奨学生は、個人としてだけでなく社会の一員として果たすべき役割について深く考える機会を得ました。

当財団は今後も、一人ひとりの尊厳と多様性を大切に、より良い環境づくりを進めてまいります。現役の服部奨学生、服部 Alumni、そして事務局や役員など、すべての関係者が手を取り合い、それぞれの目標に向かって切磋琢磨していくことを心より願っております。

2025 年 3 月

公益財団法人服部国際奨学財団
理事長 瀬田 大



はじめに

私は 1990 年に日興証券（現在の S M B C 日興証券）に一般職として入社し、社会人としてのキャリアをスタートしました。入社後数年で結婚を機に退職し、他の企業で事務職に就いていましたが、出産のため専業主婦としての生活を選びました。しかし、IT バブルで人手不足だったこともあり、別の大手証券会社で再び働くことになったのですが、その後、日興コーディアル証券（当時）に復職することになりました。復職後は育児休暇を取得しながら仕事を続け、46 歳で初めて管理職になった後、いくつかの部店での管理職を経て、

S M B C 日興証券で初の女性役員に就任しました。2024 年からは日興アイ・アールの代表取締役社長を務めています。

入社以来、多くのお客さまと会話をし、様々な経営者と出会い、多数の企業や団体を訪問してきました。その中で、経営環境や企業、個人のあべき姿の変化を実感してきました。長年にわたり証券会社で働き、現在は企業の IR（Investor Relations）を支援する会社に身を置いています。企業が今後どのように成長し、社会に適応していくべきかを考えることは非常に重要なテーマだと思っています。

経営環境の変化と企業の進化

入社した 1990 年代は、日本経済にとって大きな変動を迎えていました。バブル経済の崩壊により、企業はコスト削減や効率化を求められ、リストラやアウトソーシングを行うなど、短期的な利益を重視し、価格競争に焦点が当たるようになりました。また、インターネットの普及により、ビジネスモデルは大きく変化し、オンラインビジネスの拡大やグローバル化が進行しました。企業経営には社会的責任（CSR）も重要視されるようになり、求められる人材像も変化しました。デジタルスキル、柔軟性や適応力、戦略的思考、論理的な問題解決能力が重視され、グローバル化に対応するための異文化理解やコミュニケーション能力も不可欠となりました。

2000 年代になると、グローバル化と情報技術の進展が企業経営に大きな影響を与えるようになりました。インターネットのさらなる普及により、E コマースが一般化しました。そのため、企業はターゲット顧客へのアプローチを変革し、デジタルマーケティング戦略を構築する必要がありました。人材には情報収集力やデータ分析能力、IT リテラシーが求められ、顧客ニーズに基づくマーケティング戦略や CSR の理解、チームワークも求められるようになりました。

2010 年代は、テクノロジーの進化に企業が対応を迫られる時代でした。スマートフォンの普及やソーシャルメディアの台頭により、消費者との接点が多様化。企業はリアルタイムでの顧客対応やブランド管理が求められるようになりました。この時代には、デジタルスキルやデータ分析能力に加え、社会的責任を理解する姿勢が必要とされ、チームワークやコミュニケーション能力、リーダーシップもさらに重視されるようになりました。

新たなビジネス環境

役員となった 2020 年代は、パンデミックの影響で新たなビジネス環境が形成されました。リモートワークの普及など、企業は柔軟な働き方を導入していききましたが、この状況がテクノロジーを活用した効率的な業務運営を促進していきまし

た。デジタルトランスフォーメーションが加速し、AI や自動化技術が企業経営において重要な役割を果たすようになりました。

この変化により、企業は業務の効率化やコスト削減を図り、競争力を高めるための新たな手段を手に入れました。さらに、環境問題や社会的課題への注目が高まる中で、企業は持続可能な経営や ESG（環境・社会・ガバナンス）への取り組みを強化する必要がありました。

成長する企業と個人の特徴

自身の経験を通じて、時代の変化に応じたスキルや考え方が常に求められることを実感しています。成長する企業には共通点があり、これは個人にも当てはまります。成長する企業と個人は明確なビジョンを持ち、それに基づいて具体的な目標を設定しています。このビジョンは企業の進むべき方向を示す羅針盤となり、個人にとっては将来のキャリアや人生の指針となります。

また、柔軟性と適応力も重要です。市場環境の変化に迅速に対応できる企業は競争優位を保ち、個人も新しいスキルを学ぶことで市場価値を高めることが可能です。継続的な学習は個人の成長を促進し、企業全体の成長にも寄与します。

成長にはチームワークとコミュニケーションが不可欠です。社員同士の交流を円滑にする仕組みを整えることで、協力が促進され、創造性や生産性が向上します。個人においても良好な人間関係を築くこ

とで、成長の機会が広がります。

フィードバックは企業や個人の成長において重要な要素です。成長する企業や個人は積極的にフィードバックを取り入れ、強みや改善点を明確に把握し、成長の方向性を見出します。ステークホルダーからの定期的なフィードバックは、企業にとって経営の軌道修正やビジネスモデルの強化につながり、個人にとってはパフォーマンス向上や協力関係の強化に寄与します。これらの要素は持続的な成長を実現する基盤となります。

未来への展望と新たな人材育成

企業には、持続可能性を経営の中心に据え、テクノロジーの進化を活用して社会的課題を解決する新たなビジネスモデルの構築が期待されます。環境への配慮や社会貢献を積極的に行い、持続可能な成長を追求することが求められます。これにより求められる人材像も変化し、単にスキルや知識を持つだけでなく、柔軟な思考を持ち変化に対応できる人材や、多様なバックグラウンドや視点を持つ人材が必要とされます。企業が変化に柔軟に対応し、持続可能な経営を実現するためには、経営者と社員が共に成長し学び合う文化の構築が不可欠です。特に若い世代の新しい視点や価値観を取り入れることで革新的なアプローチが生まれます。多様な視点を持つ人々が集まることで新たなアイデアが生まれ、企業の競争力が高まります。また、社会的責任を果たす姿勢を持つ社員が増えることで企業の信頼が高まり、長期

的な成長につながります。

これからの時代には、自己成長のために常に学び続ける姿勢が欠かせません。変化の激しい社会では、最新の知識やスキルを身につけることが競争力を保つために不可欠です。情報が溢れる時代において、必要な情報を選び取る力が求められます。学び続けることは個人のキャリア形成にも重要で、最新の知識やスキルを身につけることで市場価値を高め、キャリアの選択肢を広げることができます。学びの過程で得た経験や知識は他者との交流を通じて深まり、個人だけでなくチームや組織全体の成長にも寄与します。

最後に

繰り返しとなりますが、変化の激しい時代においては、柔軟性と学び続ける姿勢が何より重要です。企業も個人も、常に新しい環境に直面しますが、その中で成長するためには明確なビジョンを持ち、適応力を高めることが求められます。特に、若い世代の新しい視点やアイデアは、課題を乗り越えるための大きな力となります。

持続可能な社会の実現に向けて、性別や年齢に関係なく共に学び、共に成長していくことが必要です。企業は多様性を尊重し、社員一人ひとりが力を発揮できる環境を整えることが求められています。そして、私たち自身も日々の学びを通じて、自分自身の成長を追求し続けることが重要と考えています。





「世界へはばたけ服部奨学生！」

遡ること47年前。名古屋市内のとある中学校に入学したとき、ギターの上手な少年2人と出会いました。その少年達はバンドを組み盛況なコンサート活動を精力的に開催するなどしておりプロ目線の腕前であった。そう、その少年達が瀬田理事長と米山事務局長です。（ちなみに評議員の花井氏もそのバンドでドラマーでした）私は楽器の演奏はできませんでしたが、当時流行ったハードロックという音楽が好きだったため必然的に仲良くなり、中学・高校と共によく遊び、勉学に励み？…と青春を謳歌していた思い出がつい昨日の事のように思えます。

卒業後も瀬田理事長とは時々酒を酌み交わすことが続いておりましたため、奨学金財団に私財を投じ運営されている事は存じておりましたが、その時はまさか私が関わるという事など全く思いもよりませんでした。ところ

が一昨年、私が仕事の一線を退くとの話をしたときに財団活動を手伝ってくれないかと理事長からのお声を頂き、完全給付型奨学金財団という社会的意義のある慈善事業に人生の晩節において携われることは非常に誇らしく、謹んでお受けさせて頂きました次第です。

そして、2023年11月に服部国際奨学財団15周年記念講演会に参加したのが財団に関わるようになった初めてのイベントでした。その後2024年の6月に授与式に参加し、初めて服部奨学生の研究発表会を目の当たりにしたときの驚きは衝撃的でさえありました。洞察力・プレゼン力等々、本当に20歳そこそこの学生なのかと目を疑うような発表に圧倒され、瀬田理事長に「凄いですね、私が20歳くらいの時はあーとか、うーしか言えませんでしたけど」と申し上げましたところ、理事

長は「うちの奨学生はね、皆楽しみだよ」と嬉しそうな表情を浮かべていらっしまったのが印象的でした。選考委員の先生方の慧眼もさることながら、それに十分敵う能力を備えているまさに恐るべし服部奨学生と感じざるを得ませんでした。

また同時に、理事長が慈しみをもって奨学生の方々に接している事が、この服部国際奨学財団の特長である面倒見の良さにつながっていると強く感じました。そのように、将来各分野でのリーダーとなりうるポテンシャルを秘めた若者を応援する財団に関わらせて頂く機会を与えて下さり感謝しております。

閑話休題。今回事務局より服部奨学生への寄稿文をというご依頼頂きました。あれこれ考えましたがいざ文章を書こうとすると筆が進まず…何を書いてよいのやらさっぱり。という状態が続き困っておりました。

しかしながら色々考えているうちに、ふと自分の半生を振り返ってみたところ当時は何も思っておりませんでした。これまで様々な方々に助けられていたことに気づきました。既にお礼をお伝えする事や、ご恩に報いることも叶わない方々もいらっしやいます。その方々へ敬意を表し、亡き恩師から教わりました言葉を引用し服部奨学生の皆様へのメッセージとすることに致しました。「やってみせ、言って聞かせて、させてみて、ほめてやらねば、人は動かじ」奨学生の若い方々でもご存じの方もいらっしゃるかもしれませんが、旧日本海軍の連合艦隊司令長官として多くの部下を統率した山本五十六の名言で「人を動かすための本質」であり、シンプルな言葉ながらも非常に含蓄に富む言葉であると思います。こうあってほしいという手本を自ら見せて伝え、相手が理解できているか確認しながら教え、更に理解を深めるために実践させ考える機会を与え、努力や目に見えない成

果を肯定することにより相互理解を深め、信頼関係を構築できれば自発的に行動できる有能な人物が育つ。と私は解釈しております。それゆえ、将来において日本や諸外国で各分野でのリーダーとなりうる服部奨学生の皆様に贈る言葉とさせて頂きました。

奨学生の皆様は、リーダーになるのはまだ少し先でしょうが、リーダーたる者は優れた部下を育てることも責務である事を銘じて頂きたく存じます。また、社会に出られてから上司がそのような事に基づき指導されているかを逆に思いながら自身が将来部下を持つ立場になることを想像してみても如何でしょうか。服部奨学生の皆様は様々なバックグラウンドを持った優秀な学生ばかりです。社会にでるとなかなか異分野の方々と深く交わる事が少なくなりますから、どうか皆様には、当財団で様々な分野の方とふれあい、広い見識を身につけ、日本及び世界を舞台に飛躍する人生の

旅へ挑んで頂きたいと切に願っております。そして、将来立派なリーダーとなってこの財団に雄姿を見せにお越しいただきたい。大いに期待しております。私は服部財団に関わらせていただいております。奨学生の皆様と近い距離にありたいと思っております。各行事や懇親会に可能な限り参加しておりますので、お互いに糧となりうる話をたくさん致しましょう。

最後に、瀬田理事長はじめ事務局の方々には深甚なる感謝の意を表すと共に服部財団のさらなる発展を祈念致しております。





アルーアダウィー イサ
AL ADAWI ISSA SAMIR HAMED
国籍 オマーン
第15期服部奨学生
2023年04月～2025年03月
中京大学 スポーツ科学研究科
スポーツ科学専攻 博士前期（修士）課程 M2

—— 服部奨学金との出会いは
オマーン政府からの奨学金は大学4年間で終了となりましたので、大学院での研究活動と水泳に集中できるよう他の奨学金を探していました。そのようなときに以前日本語の授業と一緒に受けていた廖 本嵩（リョウ ペンハオ）さんが服部奨学生であることを知り、服部奨学金について色々と教えてもらいました。なかでも金銭面のサポートだけでなく、国籍や研究内容の異なる服部奨学生やAlumniとの交流が盛んであることに心が惹かれ、そのようなみなさんと一緒に、目標に向かって頑張っていきたいと強く希望するようになりました。そして大学から推薦していただけることになり、選考を経て服部奨学生になりました。

—— 服部奨学生になったときの気持ちは
博士前期（修士）課程2年の春からご支援をいただいています。これで安心して研究と水泳に打ち込むことができると思ったのと同時に、家族や大学だけでなく服部財団からも応援していただけるという現実、身が引き締まる思いもありました。まずはパリオリンピック出場という大きな目標に向かって進む準備が整いました。

—— どのようなことに服部奨学金を使っていますか
学費です。それ以外は研究室で使用する備品や日本語検定の参考書など、主に学業に関することを使用しています。金銭面の心配がなくなり、

安心して研究や水泳に全力で取り組むことができるようになりました。

—— 服部財団の公式行事に参加してみようでしたか
水泳中心の生活をしているので、どうしてもコミュニティの輪が狭くなります。そのようななか服部奨学生となり、国籍、年齢、分野、研究内容の異なる仲間に出会うことができました。そして一人ひとり自分の言葉で語ることができる明確な目標を持っていました。そのような服部奨学生から多くの刺激をもらい自分の世界が広がったことを実感しました。

—— 再応募したときのことを教えてください
服部奨学生になって1年後の2024年春に再応募のタイミングとなりました。服部奨学生の継続を希望しましたので、応募書類の作文や課題に取り組みました。その際にもう一度自分を振り返り整理できたことで、改めて自分の進む道に間違いはないのだと再認識することができました。その想いを面接で選考委員の先生方に伝え無事に合格することができました。

—— 研究について教えてください
大学院ではスポーツ理論を定量的に検証しています。私の研究は、成功するプロチーム作りに必要なトリプルミッション（3つの要素）である「市場」「観客・ファン」「勝利」に注目し、日本のプロリーグの成功事例を検証することです。オマーンでは、近年国際的なスポーツイベントの開催が盛んになり、ますますスポーツの振興に力を入れています。オマーンのスポート振興推進役として力を発揮できるように、しっかりと研究成果を出していきたいと思います。帰国後は日本でのスポーツ経験はもちろん、大学で受けた教育と研究成果を活かすことができる職に就きたいと考えています。

—— 学会への参加状況は
今までは水泳のウェイトが多くを占めていましたが、これからは練習も少なくなってくるので、研究の時間を今まで以上に取るようにしたいと思っています。今までは遠征や合宿などにより学会の参加も限られていましたが、こちらも増や

していきたいと思っています。現在は2024年11月に開催される国内学会での発表の申込に向けて準備をしています。

—— 語学検定試験の状況はいかがですか
2024年7月に日本語能力試験のN2を受験し、先日結果が届き合格することができました。次は2024年12月にN1の試験を受けます。現在はN1の試験に向けて勉強中です。日本語能力の向上だけでなく、せっかく日本にいるので資格として取得したいと考えています。

—— 服部財団は語学試験（英語・日本語）検定料の支援もあるので有効に活用してください
ぜひ活用させていただきたいと思います。支援をいただけるからには、「必ず合格するぞ」という強い気持ちを持って取り組んでいきたいと思っています。

—— なにか趣味はありますか
水泳中心の生活が長く続き、趣味らしい趣味がありませんでしたが、練習も落ち着いてきましたので、ちょうど今 探している最中です。インドアでもアウトドアでもどちらでも大丈夫ですが、オフの日は寮でゆっくりするのが好きなので、読書を趣味にできるといいかなと考えています。最近日本語能力試験の対策もかねて日本語で本を読むようにしています。

—— 留学前 イサさんの母国であるオマーンについて教えてください
オマーンはアラビア半島に位置する中東の国で、公用語はアラビア語です。私は首都マスカットの特別行政区で高校生まで過ごしました。気候は基本的に一年を通して温暖な気候で、特に5月



～9月は最高気温が40℃以上になることがあります。12月～2月でも最低気温は15℃くらいなので、コートはいりません。日本に来て初めてダウンジャケットを購入しました。

—— オマーンでのスポーツの現状はいかがですか
オマーンではサッカーが最も人気のあるスポーツになっており、サッカーリーグとしてオマーンリーグがあります。ただFIFAワールドカップ本大会への出場経験は無いです。オマーンの人たちは学生時代にスポーツを始めても競技ではなく趣味の範囲で終わってしまうケースが多いので、スポーツの面ではまだまだ世界と戦うことは難しいと思います。

—— ご家族について教えてください
両親と姉、私の4人家族です。国籍は、父と姉、私の3人はオマーンで母は日本です。姉は現在カナダで医師（外科）を目指して働きながら勉強をしています。そして日本には母方の祖母がいます。小さい頃は2、3年に一度、夏休みを利用して家族全員で祖母の家に遊びにきていましたので、日本文化に接する機会は多かったと思います。

—— 水泳はいつごろから始めましたか
オマーンではプールの施設が無い学校が多いのですが、私の通っていた現地の学校にはプールがありました。25m程度のプールなので競技用ではなく体育の授業程度の施設ですが、泳ぐことの楽しさを覚え、水泳を始めるきっかけになりました。そして中学2年生からは本格的に練習を開始しました。

—— 水泳を始めてからの1日の流れを教えてください
現地の学校で勉強したあと、日本人学校で日本



語を学び、それからプールに移動し水泳の練習をしていました。オマーンは電車やバスなどの公共交通機関があまりなく自動車での移動がほとんどです。学校からプールまでは遠かったので、母が自動車で送り迎えしてくれました。作ってくれたお弁当を移動中に食べて頑張っていました。

—— ご家族の支えが大きかったんですね
オマーンの子供達は基本的に学校から帰ると自由な時間があり、友達同士遊んでいましたが、自分は遊ぶ時間がとれず寂しい思いをしていました。そのような時に母から「日本の子供達は学校、部活、塾と1日忙しくしているんだよ」と聞かされました。オマーンでは特別かもしれないけど、日本では普通のことなんだと考え方を切り替えることができました。

—— お母さんが色々教えてくれたんですね
そうですね。他にも母からは、「上には上がいるんだよ」ということを教えてくれました。小さい頃はオマーンで一番になるとそれで満足していましたが、オマーンで一番になっても世界では一番ではないということをよく話してくれました。そのおかげで現状に満足せず常に世界を見て練習に励むことができたと思います。

—— 当時から世界を目指していたのですか
はい、母の言葉からもやる以上は上まで目指してやろうと決めていたので、高校生の時には、競泳でオマーン代表として東京2020オリンピックへの出場を目指して頑張ろうと決意しました。

—— そして競泳のオマーン代表に選ばれたのですね
オマーン代表に選ばれたのは、もちろんタイム

の面で成績がよかったことがあげられますが、それだけではなく両親の厚いサポートが評価されたことも関係しています。両親の応援する姿をいつも見ていたオマーン代表コーチから声をかけてもらい、それがきっかけとなり最終的に代表入りすることができました。

—— 留学後 留学先に日本の中京大学を選んだ理由は
オマーンでは高校生が受ける学力試験の優秀者に対し、政府からの奨学金で留学ができる制度があります。行き先は基本的にアメリカとイギリスになります。私はアメリカ留学に対して奨学金をいただけることになりました。でも指定されたアメリカの大学は勉強以外のスポーツ活動はできない条件でした。水泳を続けていく意志が強かったので、アメリカ留学は諦めました。そのような時にオマーン水泳連盟のトップの方が、日本マスターズ水泳協会会長である中京大学の高橋繁浩先生と繋がっていて、マスターズの試合でオマーンに来ていた際に会うことができました。高橋先生に私の想いを話したところ、勉強とスポーツの両立ができる環境が中京大学にはあることを教えていただきました。そのような環境に強く惹かれたので、アメリカではなく日本の中京大学に行こうと決心し、留学先を決定しました。

—— 中京大学に入学していかがでしたか
来た当初はまだまだ日本語の能力も不十分で、スムーズに話すことができませんでした。食事内容や文化の違いだけでなく、練習の量や質の違いもあり、体重は入学した時の75kgから、最初の3ヶ月で69kgまで減りました。人見知りで人と話すことが苦手だったということもあり最初は本当



に大変でした。

日本の先輩・後輩の関係にも戸惑いました。オマーンにはそういった関係性がなかったで、とても不安でした。しかし事あるごとに先輩から気遣いや励ましの声をかけてもらい、親しく接してくれたので、不安はすぐに解消されました。また同期のメンバーとは、すぐに仲良くなれました。コーチやスタッフのみなさんもすごく親切でしたので、設備など環境面だけでなく人間関係もとても良好でした。

—— 寮生活はいかがでしたか

同期、先輩、後輩と一緒に生活することで、絆を深めることができました。もし一人暮らしでしたら溶け込むのに時間がかかったと思います。また「大学」「練習」「寮」の流れが自然とでき、日々リズムが安定し規則正しい生活に繋がりました。心と体のコンディションを保つ意味でも寮生活はよかったと感じています。

—— 水泳部のチームメイトに留学生はいましたか

留学生は私1人で他は全員日本人でした。現在は大学1年にミックスルーツの後輩がいますが、日本生まれ日本育ちなので、同じミックスルーツとはいえ少し違う状況です。

—— 東京オリンピック2020にオマーン代表として出場決定した際、まわりの反応はいかがでしたか

大学4年のときに開催された東京2020オリンピックにオマーン代表として参加することができました。出場が決まったときは同期から応援動画や手作りポスターなどで沢山の応援をもらいました。中京大学に来てから東京2020オリンピックまでの3年半は同期がいてくれたからこそ頑張れ

た部分があるので、感謝しかないです。

—— コロナ禍のオリンピックになりましたね

コロナ禍での開催でしたので、オマーンに帰国して他の代表選手と一緒に調整することはできませんでした。でも環境の整った日本で調整できたことはよかったと思います。

—— 実際に参加してみていかがでしたか

オマーン代表としてレースに参加できたこと、そして開会式でオマーン代表として旗手を務めたことも一生の思い出になりました。また世界の一流選手の活躍を間近で見ることができ、とても刺激を受けたことを覚えています。

できたばかりの最新の設備が整った競泳会場、東京アクアティクスセンターも素晴らしい会場でした。

—— 東京2020オリンピックが終了したときの心境は

レースが終わった瞬間は思った結果がでませんでしたので、すごく悔しかったです。すぐその場でプールサイドにいたコーチに「パリを狙いたいです」と伝えました。すぐに気持ちを切り替えて次の3年後は必ずパリに行くんだと決意しました。

—— パリオリンピックに向けて、どこを拠点に準備していこうと思いましたが

東京2020オリンピックが終わったタイミングは大学4年でしたので、パリオリンピックに向けて卒業後はどこに籍置いて練習を続けていくのか判断が必要でした。自分はオマーンではなく環境の整った中京大学で練習していきたい気持ちが強かったので、コーチに相談しました。そしてコーチからは中京大学の大学院を勧めていただきました。

せっかく日本にいるので、このまま帰るのではなくオマーンと日本のスポーツを取り巻く環境の違いなどを学んで、帰国後はオマーンと日本の架け橋として、それらを伝える立場になりたいと思い大学院に進学しました。

—— 中京大学大学院に進学後、パリオリンピックまでの準備は順調でしたか

パリオリンピックまでの期間は通常の4年間ではなく3年間ということもあり、課題を明確にして、一つひとつ目標を設定していきました。練習や合宿、そして遠征試合などで3年間はあっとい

う間でした。

2年目の春に服部奨学生になることができ、ここからは安心して水泳に取り組むことができました。服部財団の支えによって、精神も安定しより深くトレーニングをすることができたと思います。そして無事に6月下旬（2024）に正式にオマーン代表としてパリオリンピック出場が決まりました。ただやはり3年間という短い期間でしたので、時間的余裕がなく、そこからさらにギアアップをしないといけない状況でしたので、やることも多く焦り気味でした。

—— パリオリンピックはいかがでしたか

家族全員がパリに来て応援してくれただけでなく、服部奨学生からもSlackで祝福のメッセージを多くいただき勇気づけられました。現地では日本代表となった中京大学の競泳や陸上の選手やサポートするスタッフもいましたので、チーム中京大学の輪が自然と生まれました。ホーム感を持つことができましたので、落ち着いて試合に臨むことができました。

納得のいくタイムではなかったものの、オマーン代表として競泳では初の2大会連続出場も果たすことができたので、上を見てやり切ることができたのではないかとと思っています。

—— 今後は

7年間の日本での経験を活かして、オマーンでスポーツを通して日本など世界の国々との橋渡しをしていきたいと思っています。具体的にはオマーンのスポーツ関係の公的組織に所属し、スポーツ振興施策の立案や選手育成などの仕事をしたいと考えています。

—— 最後に

服部財団のサポートがなかったらこうやってオマーン代表で2大会連続オリンピックに出場し、日本での研究を続けることはできなかったと思います。大学4年間はオマーン政府からの奨学金がありましたが、大学院進学にともない終了しましたので、これからどうやって水泳と研究活動を並行していこうかと悩んでいたときに服部財団からのサポートをいただき、日本の中京大学でそのまま水泳に、そして研究に励むことができました。本当に感謝しています。

インタビュー 2024.09.04



- 1.2 2024年度文化講演会（ヒルトン名古屋 2024/11）
- 3 2023年度授与式（名古屋マリオットアソシアホテル 2023/05）
- 4.8 理事会・評議員会 昼食懇親会（服部財団事務所 2025/02）
- 5.6.10 2024年度修了式（ミッドランドホール 2025/03）
- 7 服部奨学生・Alumni・役員 懇親会（名古屋市中区 2024/11）
- 9 2023年度授与式・服部奨学生親睦会（名古屋市中村区 2023/05）

服部奨学生紹介



WIJEKOON MUDIYANSELAGE RUVINI
LASANTHIKA KUMARI

ビジェコーン ムヂヤンセーラゲ ルビニ
ラサンティカ クマリ

第16期服部奨学生
2024年10月～

東京科学大学大学院医歯学総合研究科
医歯理工保険学専攻-工学/無期生体材料学 M1

1 2 3
4 5 6

- 1 Johns Hopkins 大学の Carol Underwood 先生との国際交流プログラム (東京科学大学・2024/12)
- 2 2024 年度修了式 (ミッドランドホール・2025/03)
- 3 就活メイクアップセミナー後の親睦会 (名古屋市中区 2025/03)
- 4 2024 年度文化講演会 (ヒルトン名古屋・2024/11)
- 5 2024 秋季服部奨学金授与式 (ヒルトン名古屋・2024/11)
- 6 研修旅行 関東 (東京・2025/02)

うまくいかない日があるからこそ、順調な日々のありがたさに気づけます。 そんな時、新しい視点を持つことで、思いがけないチャンスが生まれることもあります。

私にとって、そのチャンスが、服部国際奨学財団の奨学生に選ばれたことでした。私の日本での留学は、日本政府の文部科学省奨学金をもらったことによって始まりました。技術の最先端に行く日本で工学を学ぶことは夢のような機会でした。しかし、夢を追うことは決して簡単ではありません。修士課程に進学した際、それまで受けていた奨学金を失い、大学の授業料免除も受けられませんでした。経済的な不安の中、それでも学業を続けたいという強い思いがありました。そんなときに出会ったのが服部奨学金でした。

服部奨学金をいただいたことで、経済的な悩みに解放され、研究に対してより一層の集中を持って取り組むことができています。現在取り組んでいるのは「フォトサーマルナノ材料の開発」で、特にがん治療または感染治療への応用に関心を持っています。また、持続可能性や医療技術といった分野にも興味を広げることができ、より多角的な視点で学ぶ機会に恵まれました。現在学問だけではなく、ボランティア活動や課外活動を通じて他の人を支援することに深い喜びを感じてい

ます。異なる文化や価値観を持つ人々と共に問題を解決する中で、視野が広がり、他者の立場を理解する大切さを実感しています。さまざまなバックグラウンドを持つ人々との協力は、私にとって貴重な学びとなり、人生に対する新たな視点を得ています。

そんな私にとって、服部奨学金は単なる経済的支援を超え、「つながり」をもたらしてくれました。この奨学金を通じて、異なる分野で活躍する素晴らしい仲間と出会い、多くの刺激を受けています。皆さんの挑戦する姿勢に励まされ、私自身もさらに高みを目指したいと思うようになりました。この機会を与えてくださった服部国際奨学財団に、心から感謝しています。奨学金がなければ、私は今のように学業や研究に全力を注ぐことはできなかったかもしれません。これからも、服部財団の精神である「挑戦する心」「感謝の気持ち」「社会への貢献」を大切にしながら、自分にできることを追求していきたいと思っています。

私の力を信じてくださり、服部ファミリーに迎えてくださったこと、本当に感謝しています。これからも全力で頑張ります！

服部奨学生紹介



名古屋大学で過ごした四年間は、入学前には想像もなかった貴重な経験の連続でした。服部財団からのご支援のおかげで、自分の活動に多くの時間を割くことができました。また服部奨学生であること自体が、私の原動力であり続け、学業・課外活動・研究活動すべてに全力で取り組むことができました。

私は航空機への憧れと、大規模なものづくりを経験したいという想いから、人力飛行機を製作する団体に所属し、睡眠を忘れるほどの時間をこの活動に捧げました。チームでは機体の製作とパイロットを務め、皆が膨大な時間を費やした努力の結晶である機体を背負って飛びました。地上の制約から解放され、広大な空の中を風を感じながら飛ぶ経験は、何にも代え難い喜びでした。チームで誰も作ったことのない飛行機を形にするために、工学の知識を総動員し、目標に向かって努力を重ねた日々は、かけがえのない財産です。

この課外活動を通じて、私は産業技術において材料がブレイクスルーの制約になっていることに気がつき、材料研究に興味を抱きました。研究室に配属されてから「ハイレントロピー化合物」という新しい材料群の研究に取り組みました。元素を5種類以上混ぜて作るこの物質は、従来の材料にはない特性を示す可能性があり、それを検証するために膨大な試行錯誤を繰り返す必要がありました。数多くの失敗を繰り返しながらも懲りずに物質を合成し続け、研究室メンバーからは脳筋合成マシンと呼ばれていました(笑)。その甲斐もあり、新たに5種類の物質が安定化可能で

あることを発見し、さらにハイレントロピー化合物が安定化するための設計指針を構築しました。この研究が進展すれば、将来的にハイレントロピー化合物を用いた新しい半導体デバイスの実現に寄与できるかもしれません。さらに材料研究を追求するために、4月からは東京大学物性研究所に進学します。これも服部財団の支援無くしては達成し得ない目標でした。

服部財団でこれまで出会ってきた仲間は、何かを成し遂げようという熱い心をもった人たちばかりで大変な刺激を受けてきました。こうした人々との出会いは、他のコミュニティでは中々得難いものだと思います。自身の研究や活動に情熱を注ぎ、ひたむきに努力を重ねるその姿は、私にとって憧れであり目標でした。先輩方から多くの影響を受ける中で、次第に「いつも刺激をもらってばかりでいいのだろうか」という思いが込みあげてきました。「私も誰かに影響を与える存在になりたい」という想いが、愚直に努力するための原動力になりました。その一つの形として積極的に成果を発信することを志し、関西研究発表会や修了式でのポスター発表などに取り組みしました。これからもこのような刺激の相互作用が、服部奨学生の皆さんが新たな一歩を踏み出す手助けとなることを願ってやみません。このように服部財団は奨学金をいただける場にとどまらず、学生同士がお互いに高め合える貴重なプラットホームであると感じています。服部財団からいただいたご恩を胸に、これからも自分の可能性を追求し努力し続けることで、社会に還元して参ります。



高野 隼也人 TAKANO Hayato

第13期服部奨学生
2021年04月～2025年03月
名古屋大学工学部物理工学科 B4

1 2 3
4 5 6

- 1 2024 年度修了式・ポスター発表 (ミッドランドホール・2025/03)
- 2 竹中研究室にて (名古屋大学・2025/03)
- 3 人力飛行機制作サークル (飛騨エアーパーク滝走路・2023/08)
- 4 関西地区服部奨学生研究発表会 (大阪ステーションホテル 2025/02)
- 5 2023 年度修了式・スタッフ活動 (ミッドランドホール・2024/03)
- 6 名古屋大学 2024 年度卒業式 工学部総代にて (名古屋大学・2025/03)

高野さんについては服部財団 note をご覧ください
<https://note.com/hisf/n/n114cc4f75304>



服部奨学生紹介



堀ノ内 陸 HORINOUCHI Riku
第15期服部奨学生
2023年04月～2025年03月
東京大学大学院工学系研究科原子力国際専攻 M2

1 2 3
4 5 6

- 1 スタンフォード大学留学中の服部 Alumni と (アメリカ・サンフランシスコ 2024/07)
- 2 理事長より修了証書と記念品授与 (服部財団事務所・2025/02)
- 3 2024 年度服部奨学金授与式・親睦会 (名古屋市中村区・2024/06)
- 4 2023 年度修了式・親睦会 (名古屋市中村区・2024/03)
- 5 2024 年度第 2 回研修旅行 愛知 (日間賀島・2024/11)
- 6 テニスサークルにて (埼玉県さいたま市・2023/08)

こんにちは、第 15 期服部奨学生の堀ノ内陸と申します。この春に東京大学大学院の修士課程を修了しました。

私は大学では原子力エネルギーに関する研究に携わっており、主に次世代型の原子力発電所の耐震に関する設計開発に従事しておりました。研究では原子炉容器と配管系を模擬したモデルを作成し、振動試験や解析によって地震に対する挙動を確認し、最適な設計を提案しました。またいくつかの国際学会や国内学会での発表を通じて、エネルギー産業の様々な方との交流の機会も得ることができました。これらの経験から私は、莫大なエネルギーを生み出す原子力エネルギーは将来のエネルギー変革を担う可能性を秘める一方で、技術的制約以上に安全保障や規制、国民からのネガティブなイメージといった数多くの障壁があることを痛感しました。

また学外ではコロナ禍で崩壊した関東全体のテニスサークルをまとめる関東学生庭球同好会連盟の立て直しに従事しておりました。この春からは研究とは少し離れ、総合商社というフィールドでビジネスサイドからエネルギー変革を担う人材になれるように頑張りたいと思います。

私が大学でこうした貴重な経験ができたことや将来の進路を決められたのもひとえに服部財団のおかげだと思っています。まず家庭が貧しかった私にとって服部財団の金銭的援助のおかげで、研究に集中することができ、課外活動にも取り組むことができました。

次に服部財団では研修旅行や研究発表会など数多くの貴重な経験をすることができました。そして最も大きかったのが服部ファミリーのみなさんとの出会いです。服部奨学生は他では絶対に会おうことのなかった多種多様なバックグラウンドを持つ方が集まっているのですが、本当に利他的な方が多く、私自身も進路について迷っているときに多くの先輩奨学生に相談に乗っていただき本当に助かりました。プライベートでも服部奨学生のみなさんと飲みに行ったり旅行に行ったりと服部財団でかけがえのない友達を作ることができて本当に良かったです。

修士課程の 2 年間、服部財団には本当にお世話になりました。服部奨学生になって本当に良かったです。これまでありがとうございました！服部奨学生の更なる活躍を祈っております。

服部奨学生紹介



私は、大学院で小学校教諭免許取得プログラムを履修しながら、地域に残る「河童」や「大蛇」などの民話と災害の歴史を結びつけた「防災妖怪学」の教材化プロジェクトに取り組んできました。昔から各地で語り継がれてきた妖怪の伝承は、実は災害の記憶と深く関わっているともいわれているんです。

そこで、フィールドワークや文献調査を通して、静岡県の妖怪伝承についても災害と関係があることを明らかにしました。そしてこの研究成果をもとに、防災紙芝居『なんかようかい？ ぼうさい妖怪！？』を制作しました。その後、静岡市立図書館にて小学生向けに企画した防災ワークショップは、子どもたちにも身近に感じてもらえるよう、地域の伝承と防災を結びつけた内容にしています。

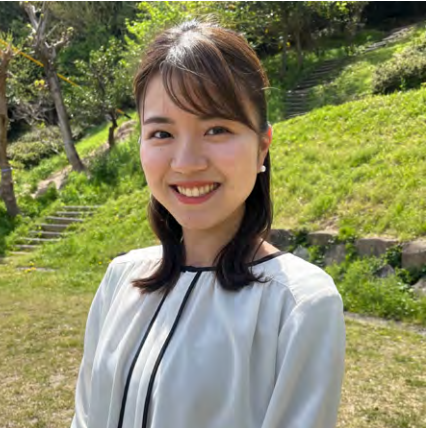
所属する藤井基貴研究室(静岡大学教育学部)では、「考える防災」「脅さない防災」「伝える防災」に加え、災害ボランティアを支援する「支える防災」を新たな視点として取り入れ、学校や地域と連携しながら防災教育に取り組んでいます。また、研究の成果をより多くの人に届けるため、幼稚園から高校まで様々な教育の場で

出前授業も行ってきました。こうした活動は、令和 6 年度「1.17 防災未来賞(兵庫県等主催)」で『ぼうさい大賞』をいただくことにもつながりました。

さらに、静岡市立図書館での「防災妖怪」をテーマにした展示企画や、能登半島での災害ボランティア活動、さらには民話のふるさと・岩手県遠野市でのフィールドワークなど、静岡県内外で多くの学びの機会を得ることができました。

服部奨学財団の奨学金は、国内の図書館・博物館での文献調査、県外での巡検、災害伝承を活用した教材開発費として、研究の大きな支えになっています。また、奨学生イベントでは、異なる分野で研究に励む仲間たちと交流することができ、大きな刺激を受け、視野が広がりました。

大学院卒業後はアナウンサーとして、地域の方々と自治体と協力しながら「防災」に貢献していきます。先人たちが残してくれた災害の教訓や、地域で防災に取り組む人々の思いを、私自身の言葉で丁寧に伝えていくことが目標です。



小川 日南 OGAWA Hina
第16期服部奨学生
2024年04月～2025年03月
静岡大学大学院教育学研究科教育実践高度化専攻
小学校教員免許取得プログラム M3

1 2 3
4 5 6

- 1 2024 年度服部奨学金授与式 (名古屋マリOTTアソシアホテル・2024/06)
- 2 2024 年度修了式懇親会・中部 Alumni 会 (名古屋マリOTTアソシアホテル・2025/03)
- 3 研究発表 (服部財団事務所・2024/12)
- 4 令和 6 年度静岡大学学位記授与式 (静岡大学・2025/03)
- 5 防災×妖怪ワークショップの様子 (静岡市立中央図書館・2025/03)
- 6 制作した防災紙芝居「なんかようかい？ ぼうさい妖怪！？」

2024/05

- 05/09 第65回名大祭 服部ホールイベント 事前ミーティング（服部財団事務所・名古屋市瑞穂区）
- 05/25 2024年度春季服部奨学生募集 面接選考/2024年度第1回選考委員会（服部財団事務所・名古屋市瑞穂区）
- 05/26 2024年度春季服部奨学生募集 面接選考/2024年度第2回選考委員会（服部財団事務所・名古屋市瑞穂区）
- 05/26 服部奨学生・選考委員 昼食懇親会（服部財団事務所・名古屋市瑞穂区）

2024/06

- 06/01 2024年度春季服部奨学生募集 面接選考/2024年度第3回選考委員会（服部財団事務所・名古屋市瑞穂区）
- 06/01 服部奨学生・選考委員 昼食懇親会（服部財団事務所・名古屋市瑞穂区）
- 06/01 2024年度服部奨学金授与式 第1回運営スタッフミーティング（服部財団事務所・名古屋市瑞穂区）
- 06/02 2024年度春季服部奨学生募集 面接選考/2024年度第4回選考委員会（服部財団事務所・名古屋市瑞穂区）
- 06/08 2024年度春季服部奨学生募集 面接選考/2024年度第5回選考委員会（服部財団事務所・名古屋市瑞穂区）
- 06/08 服部奨学生・選考委員 昼食懇親会（服部財団事務所・名古屋市瑞穂区）
- 06/08 2024年度服部奨学金授与式 第2回運営スタッフミーティング（服部財団事務所・名古屋市瑞穂区）
- 06/08 第65回名大祭 服部ホール交流会・研究発表会（名古屋大学全学教育棟1階 服部ホール・名古屋市千種区）
- 06/09 2024年度春季服部奨学生募集 面接選考/2024年度第6回選考委員会（服部財団事務所・名古屋市瑞穂区）
- 06/10 2024年度第3回理事会 書面
- 06/15 2024年度春季服部奨学生募集 面接選考/2024年度第7回選考委員会（服部財団事務所・名古屋市瑞穂区）
- 06/16 2024年度春季服部奨学生募集 面接選考/2024年度第8回選考委員会（服部財団事務所・名古屋市瑞穂区）
- 06/16 服部奨学生・選考委員 昼食懇親会（服部財団事務所・名古屋市瑞穂区）
- 06/28 2024年度第4回理事会 書面
- 06/29 [2024年度服部奨学金授与式・2024年度第1回服部奨学生研究発表会（名古屋マリオットアソシアホテル・名古屋市中村区）](#)
- 06/29 2024年春季服部奨学生懇親会（大名古屋ビルヂング・名古屋市中村区）

2024/07

- 07/22 服部奨学生・理事長 昼食懇親会（服部財団事務所・名古屋市瑞穂区）
- 07/23 服部奨学生・事務局 昼食懇親会（服部財団事務所・名古屋市瑞穂区）
- 07/26 第14期服部奨学生 廖 本嵩・両親事務所来訪（服部財団事務所・名古屋市瑞穂区）

2024/08

- 08/01 2024年度第1回メンター研究発表会（服部財団事務所・名古屋市瑞穂区）ハイブリッド
- 08/01 2024年度第1回メンター研究発表会 昼食懇親会（服部財団事務所・名古屋市瑞穂区）
- 08/01 2024年度第1回メンター研究発表会 アフタートーク（服部財団事務所・名古屋市瑞穂区）
- 08/06 名古屋大学 服部ラウンジ 秋季服部奨学金説明会（名古屋大学全学教育棟2階 服部ラウンジ・名古屋市千種区）
- 08/06 名古屋大学 服部ホール・ラウンジ活用 服部奨学生意見交換会（本山・名古屋市千種区）
- 08/23 [2024年度第1回 株式会社ユー・エス・エス見学（株式会社ユー・エス・エス・愛知県東海市）](#)
- 08/23 医療系服部奨学生座談会（服部財団事務所・名古屋市瑞穂区）
- 08/23 服部奨学生・事務局 昼食懇親会（服部財団事務所・名古屋市瑞穂区）
- 08/26 服部奨学生・理事長 昼食懇親会（服部財団事務所・名古屋市瑞穂区）
- 08/28 服部奨学生・Alumni 研修旅行前夜 関東地区懇親会（丸の内・東京都千代田区）
- 08/29-30 2024年度研修旅行 東日本大震災 被災地視察研修（宮城県方面/宮城県気仙沼市、本吉郡南三陸町、登米市など）

2024/09

- 09/12 服部奨学生企画 東洋文庫ミュージアム見学ツアー 事前ミーティング（服部財団事務所・名古屋市瑞穂区）
- 09/13 就活メンズメイクアップセミナー（中日ホール&カンファレンス・名古屋市中区）
- 09/13 就活メンズメイクアップセミナー 服部奨学生・Alumni懇親会（栄・名古屋市中区）
- 09/13 Alumni【第10期服部奨学生 加藤 杏弥】事務所来訪（服部財団事務所・名古屋市瑞穂区）
- 09/17 服部奨学生・事務局 昼食懇親会（服部財団事務所・名古屋市瑞穂区）
- 09/20 [2024年度第2回 株式会社ユー・エス・エス見学（株式会社ユー・エス・エス・愛知県東海市）](#)
- 09/25 [2024年度第1回研修旅行 岐阜（長良川鵜飼・岐阜県岐阜市）](#)
- 09/27 [2024年度第3回 株式会社ユー・エス・エス見学（株式会社ユー・エス・エス・愛知県東海市）](#)
- 09/27 2024春季服部奨学生メンター 中間報告・昼食懇親会（石川橋・名古屋市昭和区）

2024/10

- 10/03 服部奨学生企画 東洋文庫ミュージアム見学ツアー（東洋文庫ミュージアム・東京都文京区）
- 10/12 2024年度秋季服部奨学生募集 面接選考/2024年度第9回選考委員会（服部財団事務所・名古屋市瑞穂区）
- 10/12 文化講演会 服部奨学生スタッフ・選考委員 昼食懇親会（服部財団事務所・名古屋市瑞穂区）
- 10/12 2024年度文化講演会 運営スタッフミーティング第1回（服部財団事務所・名古屋市瑞穂区）
- 10/13 2024年度秋季服部奨学生募集 面接選考/2024年度第10回選考委員会（服部財団事務所・名古屋市瑞穂区）
- 10/13 服部奨学生・選考委員 昼食懇親会（服部財団事務所・名古屋市瑞穂区）
- 10/19 2024年度秋季服部奨学生募集 面接選考/2024年度第11回選考委員会（服部財団事務所・名古屋市瑞穂区）
- 10/19 文化講演会 服部奨学生スタッフ・選考委員 昼食懇親会（服部財団事務所・名古屋市瑞穂区）
- 10/19 2024年度文化講演会 運営スタッフミーティング第2回（服部財団事務所・名古屋市瑞穂区）
- 10/20 2024年度秋季服部奨学生募集 面接選考/2024年度第12回選考委員会（服部財団事務所・名古屋市瑞穂区）
- 10/20 服部奨学生 留学・進路相談 昼食懇親会（服部財団事務所・名古屋市瑞穂区）
- 10/23 Alumni【第13期服部奨学生 鹿島 梨奈】事務所来訪 東洋文庫見学ツアー報告（服部財団事務所・名古屋市瑞穂区）
- 10/29 【地域交流】アイグラン保育園初日町園児来訪（服部財団事務所・名古屋市瑞穂区）
- 10/30 2024年秋季服部奨学生交流イベント ハロウィンイベント（服部財団事務所・名古屋市瑞穂区）

2024/11

- 11/04 [2024年度文化講演会・2024年秋季服部奨学金授与式（ヒルトン名古屋・名古屋市中区）](#)
- 11/05 [2024年度第2回研修旅行 愛知（日間賀島・常滑/愛知県知多郡・常滑市）](#)
- 11/11 2024年度第5回理事会・第2回評議員会（服部財団事務所・名古屋市瑞穂区）
- 11/22 名古屋市「ともに選挙を盛り上げよう（TSM）プロジェクト」選挙活動見学（瑞穂区役所周辺・名古屋市瑞穂区）
- 11/25 関東地区 服部奨学生ヒアリング（渋谷東口駅前 貸会議室・東京都渋谷区）
- 11/25 関東地区 服部奨学生懇親会（渋谷・東京都渋谷区）
- 11/30 服部奨学生ラップワークショップ【第15期服部奨学生KIM BEOMJOON・金 範俊】（服部財団事務所・名古屋市瑞穂区）

2024/12

- 12/02 Alumni【第12期服部奨学生 高野 優衣】事務所来訪（服部財団事務所・名古屋市瑞穂区）
- 12/03 Alumni【第10期服部奨学生 楊富成】事務所来訪（服部財団事務所・名古屋市瑞穂区）
- 12/15 多様性について考えよう！～障害者・高齢者体験イベント～（服部財団事務所・名古屋市瑞穂区）
- 12/22 留学生母国料理懇親会・クリスマスイベント（服部財団事務所・名古屋市瑞穂区）
- 12/22 2024年度第2回メンター研究発表会「関西SpeedTalk」（神宮丸太町 貸会議室・京都市左京区）

2025/01

- 01/07 服部奨学生・Alumni 新年懇親会（名古屋駅・名古屋市中村区）
- 01/10 イベント企画班主催 第4回ビブリオバトル（名古屋大学 全学教育棟2階服部ラウンジ・名古屋市千種区）
- 01/13 服部奨学生・理事長 新年懇親会（名古屋駅 名古屋市中村区）
- 01/14.15 2024年度第3回研修旅行 東京 運営スタッフミーティング第1回.第2回 オンライン
- 01/24 2025年度第1回理事会 書面
- 01/27 服部奨学生 留学座談会（服部財団事務所・名古屋市瑞穂区）

2025/02

- 02/10 2025年度第2回理事会・第1回定時評議員会（服部財団事務所・名古屋市瑞穂区）
- 02/10 服部奨学生・役員 昼食懇親会（服部財団事務所・名古屋市瑞穂区）
- 02/10 服部奨学生・Alumni 研修旅行前夜 関東地区懇親会（丸の内・東京都千代田区）
- 02/11-12 [2024年度第3回研修旅行 東京（南砂町・豊洲 他・東京都江東区他）](#)
- 02/11-12 [2024年度関東地区服部奨学生研究発表会（L stay&grow南砂町ホテル カンファレンスルーム・東京都江東区）](#)
- 02/21 服部奨学生院進・寮住まい服部奨学生座談会（服部財団事務所・名古屋市瑞穂区）
- 02/24 [関西Alumni会・2024年度関西地区服部奨学生研究発表会（大阪ステーションホテル・大阪市北区）](#)

2025/03

- 03/01 [2024年度修了式・2024年度第2回服部奨学生研究発表会（ミッドランドホール・名古屋市中村区）](#)
- 03/01 [中部Alumni会・2024年度修了式懇親会（名古屋マリオットアソシアホテル・名古屋市中村区）](#)
- 03/05 就活メイクアップセミナー（中日ホール&カンファレンス・名古屋市中区）
- 03/07 名古屋市市政出前セミナー「選挙について」TSM活動（服部財団事務所・名古屋市瑞穂区）
- 03/12 医療系イベント「BLS、手術におけるVRの活用」（服部財団事務所・名古屋市瑞穂区）
- 03/14 学振セミナー（服部財団事務所・名古屋市瑞穂区）ハイブリッド
- 03/17 服部奨学生メンター 意見交換会・昼食懇親会（服部財団事務所・名古屋市瑞穂区）

2024年度
服部奨学金授与式
2024年度 第1回
服部奨学生研究発表会

開催日：2024年06月29日（土）
実施場所：名古屋マリオットアソシアホテル
16階タワーズボールルーム



高木 七海 第15期服部奨学生 名古屋大学情報学研究科博士前期課程知能システム学専攻 M2
「魅力的な食コンテンツの自動生成で食品ロス削減へ ～毎日1億個のおにぎり廃棄に終止符を～」



大河 龍之介 第15期服部奨学生
京都大学 アジア・アフリカ地域研究研究科
アフリカ地域研究専攻 博士課程2年
「果実と動物の関係性：マダガスカル熱帯林を形作る様々な動物たち」

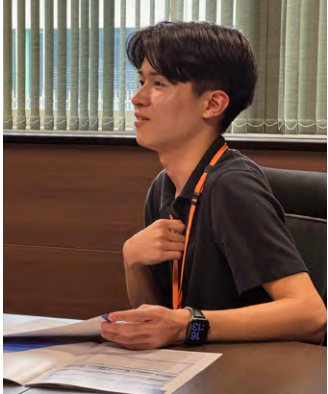


なかなか訪れることのない名古屋、知り合いのほとんどいない状況ということで、「どんな人があるのか？」と期待と緊張が入り混じった気持ちのなか授与式に参加しました。新服部奨学生の皆さんとお話させていただいて感じたのは、「好き」を原動力に目標に向かって突き進まれている方が本当に多いということです。私は服部奨学生の皆様とお話させていただく際に、研究内容や興味のある分野について積極的に質問するようにしていました。分野はさまざまでしたが、共通していたのは「〇〇が気になって」という言葉です。どの方も、その分野のどこに魅力を感じたのか、というきっかけ、今どんなことをしているのか、そして今後どうしていきたいのか、という未来のことまで丁寧に教えてくださったのが印象的でした。それらを一貫してしっかりと人に伝えるというのは、根底に「本当に好きだし知りたい」という気持ち、そして常日頃から思考しとめる癖がなければ成し遂げられないことだと私は思います。分野は違えど、思いは同じ人々が集まる空間は不思議でありながら心地よかったです。初日

ですが、服部奨学生の一員になれて本当に良かったですと感じました。そして、他者の研究への好奇心が強く、質問も鋭い方が多いと感じました。例えば、研究発表会での質疑応答では、そのほとんどが分野の異なる服部奨学生の方からの質問だった印象があります。その質問の中でも、「私は〇〇を学んでいるのですが、こちらの発表の～の部分では～」といったように、ご自身の学ばれている分野と結びつけて新たな問いを作り出す動きが強かったと感じていて、私はその積極的な姿勢にとても衝撃を受けました。質問をする側だけでなく、受ける側もまた、答えを考える中で学びを得られる質疑応答だったと思います。初日でありながら、多くの刺激を受けることができました。これからの1年間、この恵まれた環境の中で、皆様から学び、私自身もその学ぼうとする姿勢から皆さんに影響を与えられるように、服部奨学生として成長していきたいと感じました。



伊豆野 美結
IZUNO Miyu
第16期服部奨学生
(2024年04月-2025年03月)
お茶の水女子大学
理学部生物学科 B4



2024年度 USS見学

開催日：
第1回 2024年08月23日（金）
第2回 2024年09月20日（金）
第3回 2024年09月27日（金）

実施場所：
株式会社ユー・エス・エス 本社
愛知県東海市新宝町507-20



USSについての私の見学前のイメージは、中古車オークションの最大手企業であり、圧倒的なシェアを誇るというものでした。特に、中古車市場が縮小している中で、どのようにその地位を維持しているのが気になっていました。激しい競争にさらされている印象が強く、運営には大規模なコストがかかっていると予想していました。

しかし、見学を通じて感じたのは、USSのビジネスモデルが非常に効率的で、安定した利益率を維持しているという点です。社長との対談やゼリ会場、車両検査の見学を通じて、USSは競合他社との競争よりも、公正で効率的な市場を提供することに特化し、その中で安定した利益を上げていることが明確になりました。特に、売り手が匿名で取引できるシステムや独自の車両検査体制が、顧客からの信頼を得る大きな強みとなっていると感じました。

また、電気自動車市場の拡大が駆動系の研究に与える影響についても新たな視点を得ました。私が研究している電気自動車の駆動系技術は、自動車産業の中核を担うものですが、その技術は市場の需要に大きく左右されます。電気自動車は新車市場で急速に成長している一方で、バッテリー寿命や劣化具合、充電インフラの発展による再販価値の変動など、内燃機関車両とは異なる視点からの評価が求められます。このような背景の中で、中古車市場が成長する中で、駆動系技術が中古電気自動車の価値維持や再販促進に寄与する可能性があることに気がきました。駆動系の効率性や耐久性が向上することで、中古車としての電気自動車の魅

力が高まり、持続可能な市場形成に寄与できると考えています。

これらの気付きから、私の研究が単なる技術開発にとどまらず、市場全体にどのように影響を与えるかを考える必要があることを認識しました。技術革新が中古車市場や電気自動車市場の持続可能な発展に貢献できるよう、今後も研究に励んでいきたいと考えています。USSの見学を通じて得た知見は、私の研究活動において非常に貴重なものであり、自動車産業の発展に寄与できるよう努めていきます。



黒田 涼人
KURODA Ryoto
第15期服部奨学生
(2023年10月-)
三重大学大学院工学研究科
電気電子工学専攻 M1





2024年度 第1回 研修旅行 岐阜

開催日：2024年09月25日（水）
岐阜城・ぎふ長良川 鵜飼

PARK Seonkyu 第16期服部奨学生（2024年04月-2025年03月）
名古屋大学 理学部 物理学科 B4

私が名古屋大学理学部に入学してから約6年間、日本の伝統文化に触れる機会はほとんどありませんでした。そのような中で、服部財団の研修旅行で岐阜長良川の鵜飼いを観覧する機会をいただきました。

観覧船に乗って弁当を食べ終わると開始の合図の花火が打ち上げられ、まもなく鵜飼船が見えてきました。篝火がメラメラと燃え上がり、火の粉が飛び散る様は壮絶で、観覧船までその熱気が伝わりました。橙赤色の炎が水面に反射し、泳ぐ鵜と、鵜匠さんの顔までオレンジ色に染まりました。真っ暗な川と炎のコントラストは幻想的で、強烈な色彩でした。篝火の

おかげで鵜の顔もくっきりと見え、鵜が鮎を捕りに凛々しく水に潜る姿は印象的でした。それだけではなくバチバチと篝火が爆ぜる音、「ホーホー」という鵜匠の掛け声、船頭が船縁を叩く音、鵜の羽ばたきや水の音、みんなの歓声まで合わり、まさに色彩と音響の総合芸術を観ているような感覚になりました。その幻想的な風景に、昔の権力者が鵜飼を庇護した理由もすぐに理解できました。船頭を担当された第13期服部奨学生の大野さんの解説も素敵で、観覧の流れや見どころ、鵜匠さんの行動の意味等の説明を聞くことができ、よりいっそう鵜飼を楽しむことができました。

鵜飼の観覧が終わり、歓喜も静まって、観覧船から降りたみんなの顔はなんだか寂しく見えて、うかいミュージアムで学んだ「おもしろうてやがて悲しき鵜舟哉」という松尾芭蕉の俳句を思い出しました。そのまま帰宅するまで余韻に浸っていました。

1300年前から受け継がれてきた鵜飼、伝統的な方法で作られる船など、悠久な伝統文化が今でも守られ続けているのは、地域住民のみなさんの努力の結果だと思います。長良川の鵜飼いを観覧し、改めて時間が経っても変わらない価値について考えました。





綾 香音

AYA Kanon

第16期服部奨学生
(2024年04月-2025年03月)神戸大学
大学院人間発達環境学研究所
人間発達専攻教育系 M2

現代社会は限なきまでの個人化によって、あるレンズから見れば誰からも優れない生活をする事ができるようになった。しかし、異なるレンズから見れば誰にも頼ることができない社会の中で「自分は人より優れているか」という曖昧な評価基準によって、自分は豊かであると信じ込まざるを得なくなりました。自分が人より優れているということでは豊かさを信じられないというそれは本当に豊かなのか。

哲学対話では、上記の問いに真っ向から向き合う。再度我々に「他者」を認識させること、そしてそれは決して他者を蹴落とすことを意味しないこと。そのために哲学対話のルールは「厳格な柔らかさ」がある。円を作って対話することで対等で、誰でも参加

可能、何を言ってもいいし、否定されない(他6つ)。これらの柔らかなルールが厳しく決められていることで成立する。

印象深いのは、進学校はうまくいかない、という話である。この話を聞き、社会そのものの、また職場や学校という空間は、常に排除と包摂の境界線にあるということを認識した。すなわち包摂していると思っているのは実は空間だけであって、対話という具体的事象に落とし込むとき、専門的な言語を話す人が優位な立場を得、立場の弱い人が発言できなくなる構造があるということである。進学校においては自分の意見の前に根拠・論拠としての知識が先行し、彼らの経験や感情を一定飛びにしようのだろう。私の祖母は毎週大正琴をしに行く。その場

での祖母と友人の会話は、家の困りごと、地元が合併されそう、旦那さんの体の不調で揚げ物を減らしているなどであり、文句を言いながら、時に共感し合いながら語りつくす。大正琴よりもしゃべりに行っていると思うが、誰を傷つけるわけでもなく、でも困りごとは解決されている、という空間で非常に心地が良い。

私は、優秀な大学生が知識と話術で美しく論破する場より何十倍も何百倍も祖母たちの会話のほうが好きである。

哲学対話においては、知識よりも自分の言葉を豊かに持っており、自分が感じたことを子細にキャッチできることの方が何より重要だと感じた。その意味では、知識が時に弱みになるという発見を得た。



2024年度 文化講演会 2024年秋季 服部奨学金授与式

開催日：2024年11月04日（月・祝） 実施場所：ヒルトン名古屋





2024年度 第2回 研修旅行 愛知

開催日：2024年11月05日（火）
日間賀島・常滑（愛知県知多郡・常滑市）



日間賀島は自然の美しさと心温まる観光スポットで心に残る体験を提供してくれました。島の「恋人ブランコ」は特に印象的でした。青い海と広がる空に向かって揺れるブランコは、心を解放する瞬間を与えてくれ、訪れた他の奨学生と共に盛り上がることができました。

また、島の「安楽寺」も4人で訪れ、大変心が和みました。木々に囲まれ、静寂の中で時間を忘れて佇むことができる場所でした。日常の喧騒を離れて自分と向き合うひとときが持てるお寺は、地元の人々の信仰心と温かな文化に触れられる場所として非常に魅力的でした。島唯一の信号も興味深かったです。前日の哲学対話で「信号無視はいついかなる時も違法か」というテーマでディスカッションしていたので、「教育のための信号」というコンセプトに心惹かれました。小さな島ならではの風景で、普段の街中とは違うスローライフが感じられ、どこか心がほっこりする体験でした。この小さな信号が存在することで、交通の流れを守りながらも観光客に「島の暮らし」を感じさせてくれるのが面白く、印象に残ります。日間賀島の観光は、自然や文化の魅力を心から感じ

ることができ、訪れた者に安らぎと癒しを与えてくれる場所でした。

陶芸体験は今回が初めてでしたが、とても楽しめました。何を作ろうか迷いましたが、実用的で温かみのある作品が作りたかったので湯呑に挑戦しました。形や厚みを整えるのが思ったよりも難しかったのですが、粘土に触っているうちに少しずつ自分のイメージに近づけていく過程がとても充実していました。完成した湯呑でお茶を入れて、リラックスしたひとときを楽しむ予定です。特に寒い日に温かいお茶を注いで手に取れば、作った湯呑のぬくもりと共に心まで温まる気がしています。

愛知県民ではあるものの、日間賀島に行くのは二度目、常滑へ足を運ぶのは初めてという状況で、来年から上京することもあり、印象的な研修旅行となりました。主に関西・関東を拠点としている参加者の方が多いと伺っていたので、多少緊張していたのですが、終わってみれば参加者の皆様の大部分とお話をする機会があり、共に写真撮影をしたり、snsを交換したりと、一日でぐっと仲を深めることができました。このような機会を設けていただきありがとうございました。



中川 朝子
NAKAGAWA Asako
第16期服部奨学生
(2024年04月-2025年03月)
名古屋市立大学医学部医学科 B6



朴 賛星 (PAK Chan-sung) 第15期服部奨学生
一橋大学大学院 社会学研究科 地球社会研究専攻 M2
「朝鮮学校コミュニティ」の形成と継承 ― 七輪焼肉とその空間が果たす役割に着目して ―



黒田 凉人 第15期服部奨学生
三重大学大学院 工学研究科 電気電子工学専攻
電機システム研究室 モータ制御分野 M1
「電気自動車の仕組みと新しい活用法」



堀 聡音 第13期服部奨学生
名古屋大学文学部人文学科 社会学専攻 B4
「スポーツ文化の転換点 部活動の地域展開が
つくる新しい地域スポーツ」



2024年度 第3回 研修旅行 東京 2024年度 関東地区服部奨学生研究発表会

開催日：2025年02月11日（火・祝）・12日（水）
南砂町・豊洲（東京都江東区他）



東日本大震災被災地視察研修 振り返り座談会
L stay&grow南砂町 カンファレンスルーム 東京都江東区 2025.02.11



Dim Dim Lian 第15期服部奨学生
早稲田大学大学院アジア太平洋研究科 (GSAPS)
修士課程 国際関係学専攻 M2
「ミャンマー内戦下におけるチン州内の民族間対立とその背景」



山本 悠雅 第16期服部奨学生
東京大学大学院総合文化研究科 修士課程 国際社会科学専攻
相關社会科学コース M1

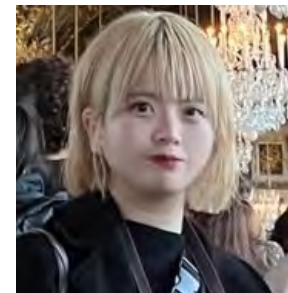
Dim Dim Lianとの対談・発表

東日本大震災視察研修を振り返る座談会において、当時震災を東北で体験した一人として参加した。今回の座談会では、これまでに行ってきた震災関連の活動についてお話を聞くだけの傍観者となるのではなく、特に災害が多い日本に住む皆さんには、誰もが当事者になりうることも鑑みて1人1人が自覚を持った当事者意識を持つことが大事であるということを活動を行う当事者として強調した。また座談会では、皆に振り返ってもらう議論の時間を設けた。その際挙がった質問の1つに“日本における災害時の心理的ケアは震災前後でどのように変化し対策しているか”というものがあった。これについては今まで目をつけたことがない観点であり、思わず言葉に詰まってしまった。それは日本の災害対策というのは、建物強化や避難時対策のようなものが主であり、事後や精神的ケアについては殆ど目を向けていないからだ。しかし、東日本大震災では多くの犠牲者、遺族を生み出し、精神的な保護を必要としている人がいる現状からは、当然考えなければならない視点であるに違いない。”災害時にどう動くか”ばかり着目され、その後の対策が浸透していないのは、国・地方自治体として対策しにくいのは個別具

体性に富むからであろうか。調査する余地がある。

その後の研修旅行では、2年前の授与式の時には知り合いが全くおらずおどおどしていたことが信じられないくらい数えきれない多くの人と様々な会話をした。今回のイベントは私にとって今までで一番充実していたと言っても過言ではないくらい楽しく、密度が濃い2日間であった。またスタッフだけでなく、参加してくださった皆さんも含め全員が心から楽しんでいるように感じた。

このような縁は非常に貴重であり、かけがえないものである。この折角の縁を今後も大切にしたいと強く感じた。特に私のような大学院生は学部生と比べると、日常の殆どが研究室との往復であり、研究室以外の人脈を形成することが難しい。そのためこの服部国際奨学財団は私の第二の心の拠り所であり、現実を忘れさせる居心地の良い場所だった。金銭面的支援だけでなく、このような機会と仲間に出会わせてくださった服部国際奨学財団の皆様は心より感謝申し上げたい。この出会いはここで終わるわけではなく、一生の宝物である。2年間という短い間でしたが、本当にありがとうございました。



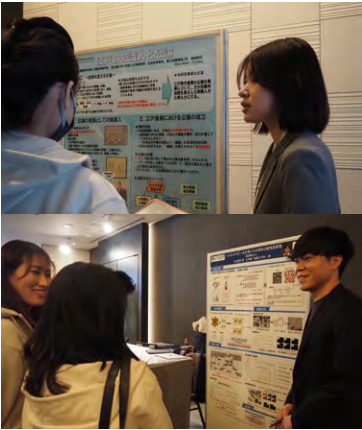
宇野澤 茜
UNOSAWA Akane

第15期服部奨学生
(2023年04月-2025年03月)
東京大学大学院工学系研究科
バイオエンジニアリング専攻 M2



関西Alumni会 関西地区服部奨学生研究発表会

開催日：2025年02月24日（月・祝）
実施場所：大阪ステーションホテル（大阪市北区）
7階 UMEDA



今回の関西研究発表会兼関西Alumni会を通じて、服部奨学生のつながりをこれまで以上に身近に感じることができました。研究発表やポスター発表では、奨学生同士が積極的に質問し合い、活発に議論する様子が印象的でした。昼食懇親会では、初対面のAlumniの方とも自然に会話が生まれ、和やかな雰囲気の中で交流できたと思います。また、受付や会場移動のサポートなど、奨学生スタッフが主体的に運営を支えていたことも強く印象に残っています。

私自身、今回初めてスタッフとして参加し、さらに司会という大役を任せさせていただきました。事務局の皆様には、会の進行を円滑にするためのタイムライン作成やミーティングの機会を設けていただき、おかげさまで無事に開催することができました。このような貴重な経験をいただき、心から感謝しております。

今回は関西限定の小規模な会でしたが、だからこそ参加者同士の距離が近く、気軽に質問や意見交換ができた点がとても良かったです。また、関西Alumni会では、関西で活躍されている元奨学生の先輩方とお話しする貴重な機会をいただきました。年齢も分野も異なる方々でしたが、「服部奨学生」という共通点があることで、初対面でもすぐに打ち解けることができました。先輩方は気さくに話しかけてくださり、進路や就職について具体的なアドバイスもいただき、とてもありがたかったです。普段、大学では同世代の人との交流が中心ですが、服部奨学生として異なる世代・分野の方々と直接話す機会をいただくことで、視野が広がるとともに、自分の将来について考える良いきっかけになっています。服部奨学生としてのつながりは、単なる奨学金制度を超えて、一生の財産になるものだと感じています。今は先輩方に学ばせていただ

く立場ですが、いずれは自分も後輩にとって頼れる存在になりたいと思います。

また、今回のAlumniの方への奨学生によるインタビューがnoteに掲載されると伺い、服部国際奨学財団の手厚い対応に改めて感謝の気持ちでいっぱいです。イベントが終わった後も記録に残していただけることで、奨学生同士のつながりがさらに深まると感じました。

この度は、素晴らしい会を開催していただき、誠にありがとうございました。服部ファミリーとしての絆を強く感じ、このつながりの大切さを改めて実感しました。これからもこのご縁を大切にしながら、積極的に関わっていききたいと思います。



芝田 晴野
SHIBATA Haruno
第16期服部奨学生
(2024年04月-)
奈良女子大学
生活環境学部 文化情報学科
生活文化学コース B2



2024年度 修了式 2024年度第2回 服部奨学生研究発表会

開催日：2025年03月01日（土） 実施場所：ミッドランドホール



2024年度の服部奨学金修了式・奨学生研究発表会では、奨学生各自が多様な分野における研究成果や実績を発表する場として医学、経済学、環境問題、芸術、さらには私自身が専攻する建築学に至るまで、各分野の先端的な取り組みを垣間見る貴重な時間となりました。特に、発表会では各奨学生の情熱あふれる発表や、異なる専門領域間での意見交換が活発に行われ、参加者全員が新たな知見や視点を獲得するとともに、互いに刺激を受け合う様子が非常に印象的でした。

また、ロビーでのポスター発表や実績展示、常滑焼の展示と人気投票といったプログラムは、各々の取り組みの魅力を存分に伝えるだけでなく、奨学生同士の交流を促

進する重要なきっかけとなっていました。展示スペースに集う中で、普段は接する機会の少ない異なる学問分野の仲間たちと直接意見を交わすことができたのは、今後の自身の研究活動や専門分野に新たな発想を取り入れるうえで大きな糧となりました。

一方、修了式においては、先輩奨学生の皆様がこれまでの経験や今後の展望を語られる中で、参加者一人ひとりが自らの学びをより深く掘り下げ、さらなる成長を目指す決意を新たにすることが印象的でした。久しぶりの再会となった奨学生の皆さんとの活発な議論や交流は、単なる学術的な情報交換にとどまらず、今後の自身の進路における貴重なヒントや励みとなりました。

今回の一連の行事を通じて、服部国際奨

学財団が提供してくださる支援と多様な分野にわたる交流の場の重要性を改めて実感いたしました。特に経済的な支援のみならず、各専門分野の優秀な学生との交流を通じて、異なる視点や知識を吸収できる環境に身を置けることは、非常に恵まれた機会だと感じています。今後は参加者としてだけでなく、スタッフや運営側としても積極的にに関わり、奨学生同士の結びつきをより一層強固なものにできるように財団の活動に貢献していきたいと思っています。

最後になりますが、このような貴重な機会を提供していただいている服部国際奨学財団に心より感謝申し上げますとともに、今後もさらなる発展と異分野交流の充実を期待しています。



馬場 玲緒
BABA Reo
第16期服部奨学生
(2024年04月-)
横浜国立大学
都市科学部建築学科 B1

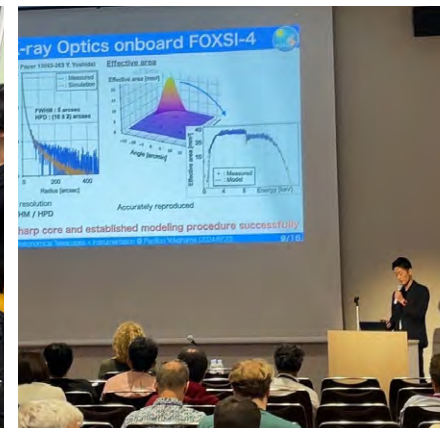
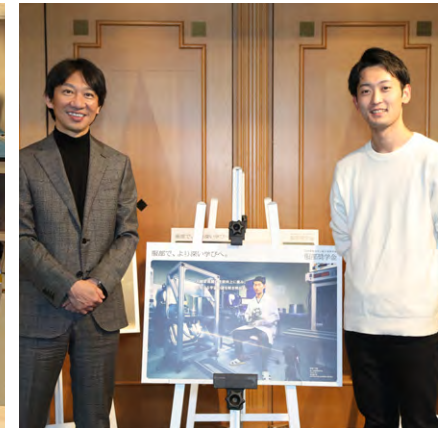
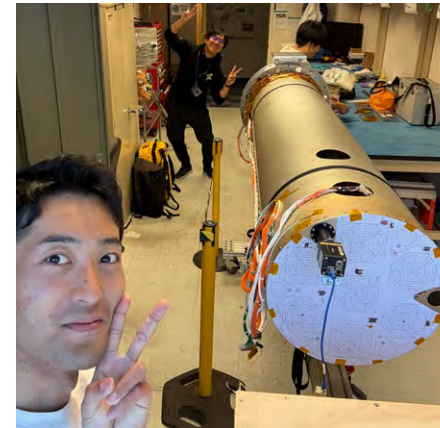
中部Alumni会 2024年度 修了式懇親会

開催日：2025年03月01日（土）
実施場所：名古屋マリオットアソシアホテル
16階タワーズボールルーム



2025年03月01日（土）、名古屋マリオットアソシアホテルにて「服部国際奨学財団 中部Alumni会」を開催し、服部Alumniや現役服部奨学生、役員・事務局を含む総勢178名が一堂に会しました。今回の会には、3期生から15期生まで幅広いAlumniが参加し、再会を喜び合いました。久しぶりの再会でもすぐに打ち解け、ご家族連れでの参加者もあり、温かく和やかな雰囲気の中で親睦を深めることができましたと思います。また「2024年度修了式」の懇親会を併催したことで、現役の服部奨学生にとっては、Alumniとの貴重な交流の場となりました。世代を超えた活発な情報交換や近況報告が行われ、刺激を受けた服部奨学生も多かったことでしょう。

服部国際奨学財団は、こうしてAlumniの皆様と変わらぬご縁を大切にできることを、心より嬉しく思います。今後も、東京・大阪・名古屋にて定期的にAlumni会を開催いたしますので、お住まいの地域に合わせてお気軽にご参加いただければ幸いです。



こんにちは。現在私は、学部・修士に引き続き実験系宇宙物理学研究室に所属し、X線天文学の研究を行っています。2024年6月に東海国立大学機構メイク・ニュー・スタンダード次世代研究事業の採択を受け、3年間にわたってご支援をいただいた服部財団を修了いたしました。今回こうして寄稿の機会を頂きましたので、改めてご挨拶申し上げます。

自己紹介・近況報告

研究テーマは「天文衛星の観測データ解析」と「望遠鏡開発」を並行して進めています。前者は卒業論文として取り組んでいた内容で、2024年2月に論文出版を達成し、最近日は・米・仏の共同研究として発展しています。『宇宙は何からできているのか?』に迫る、ワクワクするような研究です。後者は修士論文として取り組んでいた内容で、2024年4月にロケットへの搭載・打ち上げに成功し、今は次号機への搭載に向けて開発を進めています。開発リーダーを務めており、2025年11月頃の打ち上げに向け、着々と準備を進めています。

夢が叶う場所

宇宙の研究をすることは幼い頃からの夢でした。小学生で読んだ本、中学生で観たテレビ番組、高校生では本格的な天体観測とデータ解析に取り組み、その成果を名古屋大学で発表した経験もあります。いつからか憧れていた「宇宙を語れるひと」、そんな夢が叶う場所に今、私はいます。もちろん毎日すべてが楽しく幸せなわけではあ

りません。学位シーズンや学会発表の時期には徹夜で辛くなりますし、思ったように成果が出ない時にはどうしても凹みます。そんな時に感じたのは“人とのつながりの大切さ”でした。身近な家族や研究室仲間をはじめ、服部奨学生や事務局の方々とお話しすると、いつも「すごい」「頑張っているね」「尊敬する」などなど、たくさんの励ましの言葉を貰えました。話だけで前向きになって、この人たちに自慢できる結果を残したい、という強いモチベーションになっています。

今後の目標

2024年6月に参加した天文学系の国際学会では、望遠鏡開発グループを代表して口頭発表を行い、これまで出会った研究者の方々からたくさんお声掛けをいただきました。創り上げた成果に誇りを持って、広くアピールすることは、お力添えを頂いた全ての方への恩返しにつながると実感しました。博士課程も残すところ2年、お世話になった方への感謝を胸に、学術論文の執筆とロケット打ち上げの成功に向けて精進してまいります。今こうして充実した研究生活を送ることができているのは、服部財団の皆様からの多大なご支援のおかげです。服部奨学生の皆さん、夢や目標、そしてそれらを実現する野心はお持ちでしょうか。応援してくれる仲間はきっと身近にいるはずです。支えが必要な遠慮せず全力で頼ってしまってください。皆様のご活躍を心よりお祈り申し上げます。



安福 千貴 AMPUKU Kazuki

第13期服部奨学生
2021年04月～2024年03月

名古屋大学大学院
理学研究科博士後期課程 理学専攻
物理科学領域 D1

1	2	3
4	5	6

- 打ち上げたロケットと
(米国カリフォルニア州・2024/11)
- 服部国際奨学財団 設立 15周年記念講演会
(名古屋マリオットアソシアホテル・2024/03)
- 2022年度服部奨学生研究発表会
(今池ガスホール・2022/10)
- 第65回名大祭 服部ホールイベント
(名古屋大学 全学教育棟 服部ホール・2024/06)
- 名古屋大学 服部ラウンジ 秋季服部奨学金説明会
(名古屋大学 全学教育棟 服部ラウンジ・2024/08)
- 国際学会での発表 (神奈川県横浜市・2024/06)



東日本大震災被災地視察研修座談会

服部国際奨学財団が日本人大学生・大学院生への支援を始める契機となった東日本大震災。
あの日から14年。2024年08月29日・30日、服部奨学生が被災地を訪れ、震災当時の状況や
今の姿を肌で感じるとともに、服部国際奨学財団の歩みを振り返る視察研修を実施しました。
そこで私たちが見て、学び、考えたことは。

参加服部奨学生

多分野の視点から学び、考えるためにそれぞれ異なる分野を専門とする
6名の服部奨学生・服部Alumni（修了生）が参加しました



小笠原 光基
第14期服部奨学生
(2022年10月～2024年03月)
東京大学大学院 工学系研究科 D1



杉浦 和彩
第14期服部奨学生
(2022年04月～)
静岡大学 総合科学技術研究科 M1



竹下 琴里
第15期服部奨学生
(2023年04月～2024年03月)
静岡大学 教育学研究科 M2



西本 圭那
第13期服部奨学生
(2021年04月～2025年03月)
三重大学 医学部 B4



堀 聡音
第13期服部奨学生
(2021年04月～2025年03月)
名古屋大学 文学部 B4



毛利 築
第14期服部奨学生
(2022年10月～2025年03月)
岐阜大学 自然科学技術研究科 M2

視察研修行程

DAY 1 2024.08.29



DAY 2 2024.08.30



Guest speaker

宮城県出身の服部奨学生・服部Alumni（修了生）をゲストに迎え、震災当時の経験や自身の活動を交えながらディスカッションを行いました



鈴木 大翔

第11期服部奨学生

(2019年10月～2021年03月)

東京大学大学院 総合文化研究科

ドルビックスコンサルティング株式会社

宮城県加美郡出身

大学院修了後、新卒で宮城県庁に入庁。2年間、医療政策部署で小児医療を担当し、被災時の小児の避難方法の整備や震災復興補助金の管理に従事。



宇野澤 茜

第15期服部奨学生

(2023年04月～2025年03月)

東京大学大学院工学系研究科

バイオエンジニアリング専攻 M2

宮城県仙台市出身

高校時代に宮城県石巻での学術活動の一環として現地調査を実施。大学では、世界各地の震災体験談を収集する学生団体「Project San-Eleven」を運営し、震災に関する記録活動を行う。



宇野澤 第15期服部奨学生 東京大学大学院工学系研究科修士2年の宇野澤茜と申します。宮城県仙台市出身で震災当時は小学校5年生で、委員会活動をしていた時に校舎4階で被災をしました。その後の自身と震災の繋がりは2つあります。1つ目は高校時代に学術活動の一環として、宮城県北部にある石巻で現地調査をしました。2つ目は大学の学部時代に世界各地から震災の体験談を集める学生団体の設立および運営をしていました。

鈴木 第11期服部奨学生鈴木大翔と申します。僕は宮城県加美郡という山形県よりの中西部出身です。震災日はちょうど中学校の卒業式後の謝恩会に参加してる時に被災しました。大学入学までは宮城で過ごし、大学・大学院と6年間東京で過ごした後、新卒で宮城県職員として2年間宮城県庁に勤めました。医療政策部署で小児医療を担当しており、小児の被災時の避難のあり方や震災関連の復興の補助金の管理などを行なっていました。現在は転職して都内でITコンサルティングとして勤めております。本日はよろしく願います。



小笠原 ありがとうございます。では、早速ディスカッションに入ります。ディスカッションのテーマは鈴木さんから紹介をお願いします。

鈴木 僕がテーマとして考えたのは、視察研修を通して「震災という経験に対して個人として、また社会の一員として、どのような心構えでいるべきかと思ったか」ということです。



堀 ありがとうございます。東日本大震災をどこで経験したかによって、感じ方は変わってくるのかなと思います。まずは、実際に震災を経験された当事者としての意見を宇野澤さんにお伺いしたいです。いかがですか？

宇野澤 経験者からすると、個人としての心構えとしましては先ほどお伝えした学生団体でのコンセプトでもありますが、震災ということを他人事ではなく自分事として捉えるというところですね。いつ来るかわからない地震に対して常に個人でシミュレートしておくということが非常に重要であると思います。というのも、震災当時実際に地震が起きた当時パニックになってしまって、避難訓練の時に心がけたことを全く忘れてしまったということがありました。当事者からするとそういうことが大事かなと思います。社会の



一員としての心構えとしては、やはり社会というのは個人と個人が形作るものである、先ほどお伝えしたことを意識するとともに社会全体として、正しい情報を素早く見たり伝える仕組みを作り形成するというのが今後重要になってくるかなと思います。

堀 ありがとうございます。宇野澤さんが最初におっしゃられた自分事化するという部分では、私たちが東北に行ったことによってようやく繋がりが持てたというか、実感を持てたので、実際に足を運ぶことで考えるきっかけを作ること大切なのかなと思いました。次に研修に行ったメンバーからもお話を伺いたと思います。杉浦さんいかがですか？



杉浦 私は地震がいつ起こるかわからない日本に住んでいる一人として、個人としても社会の一員としても常に考えを持つことが大切だと思いました。実際に私も今回の視察研修に行くまでは津波の恐怖とかはただ知識として知っているだけでしたが、実際



に足を運んで被害にあった建物を見たりすることで津波がどれだけ恐ろしくてもう早く逃げなければいけないということを痛感しました。なので、今回のように学ぶことはもちろん、遺構の保存や被災地の支援に関しても日本人それから日本に住んでいる人であるという自覚を持って協力することが大切だと感じました。

毛利 そうですね。学んだ上で協力して行くことが大事だと僕も感じました。僕は実は目の前が海の町で生まれ育ったんですけど、大学入学を機に引っ越してからは常日頃から海だったり地震、津波のことを考える頻度というのが少なくなっていたことを今回の研修を通して実感することができました。震災のことなどは意識したり考えたりする頻度が重要なんじゃないかなと感じました。



堀 ありがとうございます。南海トラフ地震も30年以内に70%の確率で起こると言われていますし、こういうふうに普段から津波とか地震について考えておくことも重要だなと感じますね。次に社会とのつながりについ

て、西本さんどうですか？



西本 社会の一員としてという観点については、今回の視察研修で私の中でも深く考えさせられた問いの一つでもあります。答えを一つ出すというのはなかなか難しいのですが、個人としてだけではなくて社会の一員としてもひとりひとりに果たすべき役割があるということをまずは自覚していくこと。そしてその役割が人との関わりの中でどういうふうになり立っていくのかというのを考えていくことはすごく重要なんじゃないかなと感じました。竹下さんはどのように思いますか？



竹下 本当にそのとおりだと思います。日頃から備えることもとても大切ですし、社会は人と人とのつながりなので、自分の家族であつたり、大切な人にさらに伝えていくということも社会の一員としてできることだと思います。

堀 ありがとうございます。備えることと人に伝えることの両方を大事にしていきたいですね。それでは最後に質問をいただいた鈴木さんの方からまとめとしてお話をお聞かせしたいと思います。



鈴木 僕自身やっぱり震災というのが自分の人生の中ですごく一つ大きなトピックで、宮城県職員として勤める時にも思い出したりと、今回の視察研修の発表を聞いても自分のことを見つめ直すきっかけとなっています。「個人として」と「社会の一員として」を分けて質問してしまっただけなんですけど、僕としては個人としてできることと社会の一員としてできることではすごくつながっていると思っています。県職員になった時も地元のために何ができるかみたいな思いが強かったんですけど、今はむしろ自分がやりたいこととかできることというのが、きっとその先の地元のためにとか社会のためにというものは繋がる部分があるんじゃないかなと思って今を過ごしています。あんまり偉そうなことを言うつもりはないんですけど、皆さんも今日の前でやりたいことや研究に取り組まれていると思うので、そこを日々前向きに明るく、やりたいことをやっていたいて、そこを頑張る中でたまには震災のこと思い出していただいて生活していただければと思います。一緒に頑張っていきましょう。

小笠原 ありがとうございます。目の前にあることに一生懸命取り組んで、その中で意味を見出していくみたいな、そういうことだと思いました。





東日本大震災被災地視察研修 振返り座談会

L stay&grow南砂町 カンファレンスルーム 東京都江東区 2025.02.11

堀 今回の座談会では宇野澤さんの活動を紹介していただいた後に震災の記憶をどのように継承していくかのお話をしたいと思います。宇野澤さん、よろしくお願いします。



以上です。

堀 ありがとうございます。実際に声を残す・体験を残すという活動をされているということで、形に残すことで体験の捉え方というのは変わったりしますか？

宇野澤 実際、やっぱり今までも震災体験談とは数多くあると思いますけど、それは被災者だけにフォーカスされていました。私たちはあくまで、皆さんがどうするか・震災に対してどう感じたか・当時のことを今になって振り返ったらどう思うか、みたいなところ（文化講演会で）私が話したように「自分ごととして捉える」ところ、（震災という体験について）皆さんどうでしたか？となった時に、ハッとさせられるそういうメディアにできたらという思いがあります。

堀 遠く離れたところで2011年3月11日を過ごしているも、ということですか？

宇野澤 そうですね。別に東日本大震災だけが地震ではなくて、南海トラフ地震もありますし、どこで何が起ころか分からない状況で、今後にどう生かすかということが一番大事なので、それを他人事にして「こんなことあったんだ」というよりも次の日に自分が体験したらどうするのか。あくまで目線は未来に向けていこうということを私たちとしては伝えたいです。

堀 ありがとうございます。私、個人的にすごく気になっていること、皆さんが 2011年3月11日をどのように過ごされたのかを聞いてみたいです。いかがですか？



竹下 私は当時、中学校2年生だったので、授業が終わって放課後でした。名古屋市内にいたので、揺れがすごく長かったと記憶してます。先生が慌てて東北が大変なことになっていることで、本来は部

活がありましたが、一度、全員帰られました。その後、親族や身近な人に東北出身者がいないかという配慮をしていただいたり、あとは仙台市の活動センターで「PROJECT SAN-ELEVEN」の活動内容と写真を展示していただく機会もいただきました。こういった活動が功を奏したのか、服部財団の役員である東京大学梶谷真司先生が哲学対話を始めるきっかけになった場所でもある「せんだいメディアテーク」から展示のご依頼をいただき、これまでのメディアの活動を1冊の本にしました。実は、この表紙は私がデザインし描きました。これは掲載許可をいただいた 32 本の震災体験談にちなみ 32 色で描きました。「PROJECT SAN- ELEVEN」の活動紹介は

西本 私は当時、小学校5年生で三重県にいたので地震自体は揺れが大きいわけではなかったんですけど、放課

後の帰り道にお母さんから電話がかかってきて、東北がすごく大変なことになっているという連絡があって、家に帰ってテレビをつけたら、全部のニュースに「AC JAPAN」のCMがずっと流れていたという記憶が焼きついています。



杉浦 私も同じく小学校高学年ぐらいで授業中に地震が来て、愛知にいたので揺れは小さく感じましたが、先生が東日本で大きい地震が起きたことを教えてくれて、私は「自分のとこじゃないな」って思いましたが、一人の女の子が「お父さんが仙台に出張中だ」って言って泣き始めちゃって、どう接したらいいんだろうって戸惑ったことを覚えています。結果的にその女の子のお父さんは助かりましたが、地震は全部、自分事のように感じていたかなと思います。

宇野澤 私も小学校5年生で、委員会活動で廊下において、黒板付近だったので周りに机がなくて。他のみんなの周りには机があって、隠れることができましたけど、私は椅子しかなくてお尻にひたすら物が落ちてきて、私は想像力が豊かだったのか、その教室の中で一番最初に泣いちゃって。最初の揺れの時は、あんまり大きくなかったので他の友達とかは私のことを見て笑っていて、「何泣いてるんだよ」って笑っていました。その瞬間に、第二波の揺れのあまりの大きさに、笑っていたみんなも泣きだして。周りのガラスもバキバキに割れて、もう音がうるさすぎて、みんなの悲鳴すらも聞こえないぐらい割れていて、本当に倒壊するんじゃないかというぐらいの揺れでした。階段も混沌とした状況で、みんな雪崩のように走って行ったのを覚えています。それで避難した校庭ですら地割れがすごくて、地割れがどんどんリアルタイムで進行しているのが見えるぐらいだったのは、結構怖かったですね。

鈴木 この日は宮城県の公立中学校の卒業式で、僕も卒業式でしたよ。卒業式が終わって、保護者や先生方と古民家みたいな場所で、謝恩会をしてときに地震が来て、みんなで机の下に隠れて、宇野澤さんも仰ったようにガラスがバリンバリンと割れるような状況でした。危ないから外に出て、外に出たら出たでこの日は雪が降っていて、みんな上着も着ていない中で少し待機して、ちょっと落ち着いたら段階でみんな帰宅しました。たまたま親と一緒にだったので、その点は安心でしたけど、そこからは断水とか1週間ぐらい続きました。幸い津波とかはなかったので、家にいながら温度差のようなものは感じていました。



小笠原 僕は小学校で、青森県の六ヶ所村に住んでいました。掃除の時間にいきなり揺れ始めて、不謹慎ですが、年頃の男の子って地震が起きてもなぜか余裕があるみたいな態度を取っていました。それを見て、「何やってんだよ」とか言っていたら揺れがどんどん大きくなってきて。震災の日の数日前に、避難訓練をしていたので、ちょうど椅子の後ろに防災頭巾を引っ掛けていて、それを被って外に出ました。そこまではあまり被害がなかったのですが、家に帰ってテレビを見たら宮城の火事のニュースがやっていて、これは恐ろしいと思っているうちに、家も停電・断水になって、最

寄りのコンビニも全部の商品がなくなって、ご飯も文房具も全部空になっていました。

宇野澤 コンビニとか荒らされていませんか？

小笠原 荒らされていました。荒らされていたから、次の日から一家族コンビニ内を一周みたいなルールを作っていましたけど、水とかは全く足りなかったです。

毛利 僕は小学校の頃で、実はそれほど記憶がないですが、もし特殊な経験をされた方がいれば聞きたいです。僕は三重県に住んでいたのですが、小学校の高台に避難して、結構小さな町なので、おばあさんやおじさんが沢山いて、「上の方からなんか大きな波が来てるな」みたいな話をしている様子が記憶にあるだけで、他はあんまり覚えてないです。



堀 私は岐阜県にいて小学校2年生ぐらいでした。それこそ小笠原さんと一緒に掃除の時間中にちょうど地震が起こったので、雑巾を片付けに行くために歩いていたら、いきなり先生が「座って」って言い出して、机はワックスがけするために全部廊下に出していたので、何もない教室の床に座って何が何なのかよくわからないまま家に帰ってテレビを見て、大変なことになっていることをようやく把握しました。今思うことは、それぞれ小学2年生の頃のことはほとんど覚えていないはずなのに、震災が起こったときのことは、鮮明に覚えているってことが、今皆さんの話を聞きながら思っていました。そのときは、あまり自覚していなかったけど、ショッキングなイベントとして頭に残っているのだな、ということ話を聞いたり、自分が話してみても自覚できると再認識しました。

毛利 宇野澤さんのお話を聞く中で、少し思ったことがあって、僕らが東北で訪れた場所は整備されていたり、学校が残されていたりして、見てほしい場所がたくさんあると感じました。知りさえすれば、僕らでも震災のことを深く考えることができると思います。でも、その情報自体にたどり着けない人も多いのではないかなとも思いました。今の時代はオンラインで情報発信ができるので、いろんな人に震災のことを届けるという点で、宇野澤さんの「PROJECT SAN-ELEVEN」の活動はすごく大切だと思いました。そのような活動を始めた当時は、どのような思いで取り組まれていましたか？色んな人に届いて欲しいみたいな思いがあったりしましたか？



宇野澤 まさにそうです。特にコロナ禍で情報を「伝える・知る」というそもそもの意義を再定義されたような気がしていて、やはり知るための手段は、こちら側から提示していかないと、アクセスできない部分がありました。一番の大きなきっかけは、留学生が同じように知りたいけど、どうやってアプローチしたらいいかわからない。興味がなければいけないけど、どうやったら知れるのかわからない。というところでした。だったら、こういうことをするしかない、メンバーも震災の当事者がいるならやりやすいのではないかなということから発信を始めました。ただ、実は震災でご家族を亡くされた方から一通のメールが来て、こういう活動をして欲しくないという意見をいただいたことがありました。私たちが当事者ということを経ると、皆さん

が一線を引いて、すごく申し訳なさそうに聞いていただけますが、私としてはもっと前向きに向き合ってもらえると嬉しい反面、震災でご家族を亡くされた方からしたら風化させてほしくないけど、そういう伝え方はほしくないと言われましたね。それで、この活動自体を継続させるかどうかまでメンバーと悩み、葛藤しました。なので、そこを含めてまだ答えは出ていませんが、この活動に対して、こういう取り組みをしてくれてありがとうという方も一定数いらっしゃったので、我々の方針としては続けていこうと決めました。その中で、伝え方の表現を変える工夫をしていこうと話し合いました。

小笠原 続けた方がいいとは思いますがね。

宇野澤 実際そういう声があったというのは事実ですけど…。

毛利 当事者の方からそういうのやめてほしいみたいに言われると、活動する側としても葛藤があったりとか、ケアしないといけない人たちの気持ちもあるので難しい活動であることがよくわかりました。

宇野澤 ありがとうございます。



杉浦 関連して、気になったことを県庁で働かれていた鈴木さんに伺いたいです。私は留学生の友達が大学にいて、少し前に南海トラフ地震が起きる可能性が上がった注意報のようなものが出た時、あの時は日本語では、すぐに情報が届きましたが、留学生に英語で正式に届いたのは 2 時間後ぐらいでした。「これって何が起きてるの」みたいなことを留学生に聞かれて、2 時間というタイムラグに驚きました。リアルタイムの情報として行政が英語にして届けるには、大きなタイムラグが発生するのでしょうか？

鈴木 直接翻訳に関する仕事をしていただけではないですけど、宮城県庁の中にも日本語を他言語に翻訳する部署があって、基本的にはテンプレートで準備しているものがあるのでそれで緊急地震速報のような第一報とかはすぐに出せると思います。ただ、南海トラフ地震の注意報のような、危機的な情報であればある程度時間がかかるのかなと思います。テンプレートがない物を作る段階になると、チェックに時間がかかりますね。

杉浦 そこをどうにかできないのかなって 個人的に思っていましたが、解決は難しそうですね。

宇野澤 それで言うと表示の仕方は変わりましたよね。「大津波警報」「にげて！」みたいな、あれは震災後の顕著な変化の一例なのかなと思います。昔はかなり控えめな感じで、そういうところでも「別に逃げなくていいんじゃない？」みたいに思ってしまう部分もありましたね。

小笠原 複雑化していましたしね。

宇野澤 上の方に大きく「つなみ！」と書いたり、留学生も分かりやすい日本語になっていますね。

小笠原 3.11以降に「つなみ」という単語の認知度が上がったこととも外国人と接していて感じます。

宇野澤 そうですね。また、留学生繋がりで言うと、服部財団の留学生の方々との会話の中では「日本における災害時の心理的ケアは震災前後でどのように変化し、対策しているか」という質問が出ました。震災直後の行政の支援では、住まいや生活物資の提供が中心で、心理的ケアの側面に関してはどうしても後回しにされがちだったと感じます。実際、震災は多くの犠牲者、遺族を生み出し、悲しみ続けている方が多くいらっしゃるのに、国や行政の支援はどうしてもインフラや物資の支援の物質的支援にフォーカスされている印象で、精神的側面における支援は十分でなかった印象があります。

鈴木 たしかに、行政の支援はまず物資の供給や生活再建が優先されますよね。ただ、その一方で、地域の中で自主的に立ち上がったピアカウンセリングの組織もありました。例えば、NPOなどの形で被災者同士が支え合う仕組みが生まれていて、そうした自助的な取り組みが効果的に機能したケースもあったと聞いています。そのような取り組みがあったからこそ、支援が長期的に続けられたという面もありますよね。行政の枠組みだけではカバーしきれない部分を、地域の人々の力が補っていたことは、これからの災害支援のあり方を考える上でも 重要なポイントだと思います。



堀 皆さん、ありがとうございました。改めて、震災の経験をどう受け止め、どう伝えていくかは一人ひとり違う形があっていいと感じました。宇野澤さんがおっしゃったように、「語ること」が大切ですね。

宇野澤 そうですね。「語ること」で、自分の中の記憶や思いが整理されるし、それが誰かにとって新しい気づきになることもある。今日のような場が、そのきっかけになればと思います。



堀 本当にそうですね。今日の座談会が、それぞれの経験を改めて振り返り、考えるきっかけになれば嬉しいです。宇野澤さん、鈴木さんそして参加者の皆さん、本日は貴重なお話をありがとうございました。一同 ありがとうございます。



中島 芽意 京都大学大学院情報学研究科 情報学専攻通信情報システムコース M1 第12期服部奨学生

- 国際学会IEEE International Conference on Computing, Networking and Communications (ICNC 2025) にて口頭発表 2025/02
国際学会IEEE International Conference on Computing, Networking and Communications (ICNC 2025) に参加し、研究成果のプレゼンテーションを行った。
- 京都大学 Disability Resource Center (DRC) にてボランティア活動 2024/11-
京都大学の Disability Resource Center (DRC) にて、障がいのある学生へのサポートをするボランティアに従事。
特に、聴覚障がいのある学生に対するサポートとして、PCタイク業務を行う。

西本 圭那 三重大学医学部医学科 B4 第13期服部奨学生

- 第56回日本結合組織学会学術大会 口頭発表 2024/06
[「Tenascin-C過剰発現は心筋炎を増悪する」](#)という演題で口頭発表。
- 三重大学アカデミックフェア2024 アカデミック賞 2024/11
医学部内研究発表会で優秀発表者に選出され、[三重大学全学の学術発表会](#)でポスター発表。
- 地域保健・福祉における災害対応標準化トレーニングコース：Basic Health Emergency Life Support for the Public; BHELP 修了 2025/01
日本災害医学会が指定する研修会である第7回愛知BHELP標準コースを受講し修了。

高野 隼也人 名古屋大学工学部物理工学科 B4 第13期服部奨学生

- 東京大学大学院新領域創成科学研究科物質系専攻修士課程合格 2024/09
- 「2.5次元物質科学：社会変革に向けた物質科学のパラダイムシフト」第8回 領域会議 ポスター発表 2024/12
[東京大学で開催された物質科学分野のシンポジウム](#)にてポスター発表を実施。研究活動で発見した5種類の新物質を発表。
- 名古屋大学工学部物理工学科 令和6年度 卒業論文審査会 優秀賞 2025/03
[卒業論文審査会](#)にて10分の口頭発表を行い優秀賞に拔擢。
- 名古屋大学卒業式 工学部学位記受領総代 2025/03 ※1
[名古屋大学の卒業式で行われる学位記授与](#)にて工学部の学位記受領総代として拔擢。
- 能登半島地震・豪雨 災害ボランティア 2025/03
能登半島地震・豪雨災害に見舞われた地区の土砂の撤去、片付け作業のボランティア（予定）

内田 天太良 名古屋大学工学部機械・航空宇宙工学科 B4 第13期服部奨学生

- 学会 口頭発表 2025/03
[日本航空宇宙学会北部支部2025年講演会](#)ならびに第6回再使用型宇宙輸送系シンポジウムに参加し、
「NACA0006およびNACA0012翼型周りの低レイノルズ数圧縮性流れに対する壁解像LES」の題目で口頭発表。

亀崎 萌衣 京都大学大学院農学研究科 生物資源経済学専攻 森林経済政策学 D2 第13期服部奨学生

- 第136回日本森林学会大会 ポスターセッション発表 2025/03
北海道で開催された[日本森林学会大会](#)でポスター発表（予定）
- 学芸員資格取得 2024/04
大学の講義・実習を経て、学芸員資格を取得。
- 京都大学学びコーディネーター事業 出前事業 2024/11 ※2
京都大学学びコーディネーター事業の一環として、[福井県立藤島高等学校にて出前授業](#)を行った。また、都立高校生向けの京都大学フォーラムにて研究紹介を行った。
- 日本学術振興会 特別研究員DC2 採択 2024/09

菅原 良 三重大学工学部 総合工学科機械工学コース B4 第13期服部奨学生 ※3 ※4

- 能登半島ボランティア活動 2024/08・2024/11・2025/03
2024.1.1に起こった能登半島地震と8月初旬の能登半島水害のボランティア活動。その活動を[NHKにて全国放送](#)、[中日新聞](#)、静岡新聞にメディア掲載していただいた。
具体的なボランティア内容としては、災害ごみの運搬・土砂撤去・貴重品探しというものを行った。
- 海外研究留学 2024/07
研究を行うために合計約1か月タイへ。人体についての研究のため日本では行うことができず、タイのコンケン大学に協力していただき研究を行った。

ニケライ ベッヘナーゼ 東京大学大学院総合文化研究科 言語情報科学専攻 M2 第13期服部奨学生

- 交換留学 2025/02-2025/09
オーストラリア・ニューサウスウェールズ大学 (UNSW)
- Tokyo Pride 2024 2024/04
ボランティア（来場者対応）
- 川口自主夜間中学 2024/12
日本語教育ボランティア

近藤 秀樹 岐阜大学医学部医学科 B5 第14期服部奨学生

- 第10回心電図検定1級 合格 2025/02
[日本不整脈心電学会](#)主催 1級レベル：心電図の高度な判読力を有するもの 循環器専門医、心電図に深く精通したメディカルプロフェッショナル

廖 本嵩 LIAO PENHAO 中京大学スポーツ科学研究科スポーツ科学専攻 博士後期課程 D2 第14期服部奨学生

- 台湾第一回野球・ソフトボール科学研究会 最優秀論文賞 2024/11
台湾で2024年11月に開催された[第一回の野球及びソフトボール科学研究会](#)にて最優秀論文賞受賞。

堀 詩 東京外国語大学言語文化学部 言語文化学科 B3 第14期服部奨学生

- 株式会社YADOKARIのイベントレポート執筆 2024/11
イベントのアフターレポート記事執筆。[【イベントレポート】日常の中で出会う、心躍る新しい体験と学び まちやま まるごと スコアレvol.2](#)
- PAL International School主催の対談記事執筆 2024/04 ※5
府中市長・東京外国語大学学長・学校法人正和学園理事長による三者対談の様子の記事執筆。
[「多文化共生を目指して」府中市長・東京外国語大学学長・学校法人正和学園理事長による三者対談」](#)
- 東京外国語大学ホームページの記事執筆 [2024/07](#)・[2024/09](#)・[2025/01](#)
東京外国語大学のホームページ「TUF5 today」に掲載する記事執筆。
- 東京外国語大学学部入学案内2025 2024/04
ホームページ記事執筆の縁で外大付近のおすすめスポット紹介 (p.38-39) に出演。[東京外国語大学学部入学案内2025](#)

西山 史織 名古屋大学文学部人文学科 B3 第14期服部奨学生

- TOEIC Listening & Reading Test 880点取得 2024/09

半澤 克道 名古屋大学大学院工学研究科 物質プロセス工学専攻 M1 第14期服部奨学生

- 太陽光発電国際会議(PVSEC35)にて口頭発表・Student Award受賞 2024/11
2024 The International Photovoltaic Science and Engineering Conference 日本, 沼津, 2024年11月, 口頭発表 Student Award受賞
- 国際会議にてポスター発表 2024/07
40th International and 20th European Thermoelectric Conference ポーランド, クラクフ, 2024年7月, ポスター発表
- 国内学会にてポスター発表 2024/07
第21回「次世代の太陽光発電システム」シンポジウム 広島県, 広島市, 2024年7月, ポスター発表
- 国内学会にてポスター発表 2025/03
第72回応用物理学会春季学術講演会 千葉県, 野田市, 2025年3月, ポスター発表（予定）

榊原 新太 名古屋工業大学大学院工学研究科 工学専攻物理工学系プログラム M2 第14期服部奨学生

- 2024年度名古屋工業大学基金学生研究奨励(学術活動部門): 学長表彰 2025/03
大学院及び学部学生を対象に、学会発表回数、海外の学会発表、学会発表による賞の受賞などをポイント化し、上位50名に奨励金を支給する事業。その中でさらに上位10名に学長表彰が与えられる。
- 学術論文掲載(J. Phys. Chem. B, 2025, 129, 1, 447-455) 2024/12 ※6
[First-Principles Study on Formation Mechanism of Six-Coordinated Si in Silicophosphate Glass](#)
出版社:American Chemical Society 雑誌名:The Journal of Physical Chemistry B
- 第34回日本MRS年次大会: 奨励賞 2024/12
[第34回日本MRS年次大会](#) 口頭発表での受賞。
- 第37回日本セラミックス協会秋季シンポジウム: 特定セッション学生優秀発表賞 2024/09
[第37回日本セラミックス協会秋季シンポジウム](#) 口頭発表での受賞。
- 第55回日本セラミックス協会ガラス部会夏季若手セミナー: 優秀ポスター賞, 優秀質問賞 2024/09
[第55回日本セラミックス協会ガラス部会夏季若手セミナー](#) ポスター発表での受賞。
- The Electrochemical Society PRIME 2024: 国際学会ポスター発表 2024/10
- 第79回日本物理学会年次大会: 国内学会口頭発表 2024/09
- Symposium on Biomaterials: 国際学会ポスター発表 2024/05
- 第66回東海若手セラミスト懇話会: 国内学会ポスター発表 2024/06

青木 門斗 東京大学大学院教育学研究科 総合教育科学専攻 基礎教育学専修 基礎教育学コース M1 第14期服部奨学生

- 哲学若手研究者フォーラム 発表 2024/07 ※7
哲学若手研究者フォーラムにて、「[「問い」の当事者性と共同性：哲学対話における「問い」に注目して](#)」という題で発表。
- KOBE居場所フォーラム 基調講演 2025/01
神戸市青少年会館の主催する[KOBE居場所フォーラム](#)にて、基調講演を行った。



※1



※2



※3



※4



※5



※6



※7



宇野澤 茜 東京大学大学院工学系研究科 修士課程バイオエンジニアリング専攻 M2 第15期服部奨学生

- 第23回東京大学生命科学シンポジウムにてポスター発表 2024/06
東京大学駒場キャンパスにて行われた第23回 東京大学生命科学シンポジウムにおいて自身の研究内容についてポスター発表を行った。
- 第33回日本コンピュータ外科学会大会にて口頭発表 2024/11
第33回日本コンピュータ外科学会大会にて口頭発表 口頭発表
- 2024年度東京大学体験活動プログラム 海外プログラム “シリコンバレーハイテック企業社員の生の声を聞く国際交流体験” 採択 2024/09-2024/10
桑港赤門会(OBOGサンフランシスコ支部)主催の元、シリコンバレーに訪問し、現地で活躍される大学関係者や企業の方と交流を行い、現地調査・ヒアリングした結果を報告した。
- 2024年度生化学若手の会 関東支部・秋冬セミナー口頭発表 2024/11
2024年度生化学若手の会 関東支部・秋冬セミナー口頭発表
- グローバル消費インテリジェンス寄付講座(GCI) 2024 summer を修了 2024/08
東京大学大学院工学系研究科技術経営戦略学専攻が主宰する講座にてデータ分析およびマーケティングに関する所定のプログラムを修了し最終審査に合格した。
- 2024 IEEE International Conference on Robotics and Automation(ICRA2024) 〜ロボティクスとオートメーションに関する国際会議にて学生スタッフに従事 2024/05
横浜で行われたICRA2024にて学生スタッフとして各日程での議長補助を行った。
- ライフサイエンス・ヘルスケア×情報科学領域の研究者コミュニティgrubioにてインタビューとして取材、webサイトにて記事掲載 2025/02 ※8
ライフサイエンス・ヘルスケア×情報科学領域の研究者コミュニティgrubioにてインタビューとして取材、webサイトにて記事掲載。

AOKI FABIO RYUJI FUJITA 三重大学大学院工学研究科 博士前期課程 電気電子工学専攻 M2 第15期服部奨学生

- BIBM2024学会発表 2024/12 ※9
ポルトガルで開催された学会でポスター発表
- SCIS&ISIS2024学会発表 2024/11
兵庫県で開催された国際学会で口頭発表
- FSDM2024学会発表 2024/11
島根県で開催された国際学会でポスター発表
- FAN2024学会発表 2024/09
福島県で開催された国内学会で口頭発表
- 学内で開催された国際シンポジウム（修論中間審査）にてBest Presentation Awardを受賞 2024/09
ポスター発表形式で開催され、Best Presentation Awardを受賞

KIM BEOMJOON 金 範俊 大阪大学大学院文学研究科博士後期課程 文化表現論専攻（音楽学） D3 第15期服部奨学生

- 第10回 辺境のヒップホップ研究会 口頭発表 2024/10
国立民族学博物館で行われた『[「辺境のヒップホップ研究会」](#)』に発表者として参加。1時間半に渡って「移民」を主な軸に自分のライフストーリーと創作活動のこについて発表。
- 日立財団 グローバル ソサエティ レビュー Vol.3 インタビュー掲載およびエッセイ執筆 2024/12 ※10 ※11
日立財団から出版される『グローバル ソサエティ レビュー』Vol.3に、『[国立社会保障・人口問題研究所国際関係部部長である是川タさんとの対談・インタビュー](#)』が掲載。「移民」と「多文化」を題材に自分の創作活動や日本での人生について語る。また同じ号に、自分の著作である『日本移民日記』を読みかえして感じたことについて書いたエッセイ『[親切が隠せない真実ー『日本移民日記』を読み直して](#)』を執筆して掲載された。
- 『Juice学園 ヒップホップ科』特別講師 2024/12
[合同会社ROOTS主催のイベント『Juice学園 ヒップホップ科』](#)の特別講師としてラップの作詞方法論について講義。
- 大阪大学 音楽学研究室主催 第24回 コレギウムムジクム『「ラップ X 哲学」 特別対談 ACE COOL 「明暗」 X ラッセル 「幸福論」』企画および司会 2025/01
所属の大阪大学の音楽学研究室で例年開催する特別イベント「コレギウムムジクム」の今年度の企画を担当し、東京を拠点に活動するラッパーのACE COOLと、イギリスの哲学者パートランド・ラッセルの研究者である大阪大学人間科学部の特任助教の磯島浩貴さんを招いた[対談イベント](#)を開催した。当日のパネルおよび司会を務めた。

野中 玲央 東京大学大学院経済学研究科 修士課程 経済専攻経済学コース M2 第15期服部奨学生

- 学会The 7th World Congress of Game Theory Societyにて口頭発表 2024/08
“Optimal Mechanism for Selling Multiple Items to a Unit-Demand Buyer”をThe World Congress of Game Theory Society で発表。中国・北京大学
- 日本学術振興会 特別研究員DC1 採択 2024/09

高木 七海 名古屋大学大学院情報学研究科 博士前期課程 知能システム学専攻 M2 第15期服部奨学生

- 名古屋大学大学院情報学研究科知能システム学専攻中間発表会 学生が選ぶ優秀発表賞を受賞 2024/04
名古屋大学情報学研究科の学生を対象とした中間発表会にてポスター発表。
- 資格：ITパスポート試験合格 2024/09
ITパスポートの試験を受け、900点満点中840点で合格。
- 第17回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム（DEIM2025）口頭発表及びポスター発表 2025/03
タイトル：タイトル重量料理画像における魅力的なフォントの分析と推定 福岡で開催された学会に参加し、口頭発表及びポスター発表を行った。

高橋 昌暉 東京外国語大学国際社会学部 国際社会学科 B4 第15期服部奨学生

- 東京外国語大学 国際社会学部賞受賞 2025/03
国際社会学部所属の学生が提出した優秀な卒業論文に対し贈られる賞。

大河 龍之介 京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科アフリカ地域研究専攻 博士課程2年 第15期服部奨学生

- 優秀発表賞を受賞 2024/06 ※12
[第34回日本熱帯生態学会におけるポスター発表](#)で、優秀発表賞を受賞。
- 研究発表会奨励賞を受賞 2024/07
2024年度生態学会近畿地区会における口頭発表で、研究発表奨励賞を受賞。
- 学術誌 MISC掲載 2024/09
[学術誌『アジア・アフリカ地域研究』](#)に、フィールドワーク便りとしてマダガスカルでの研究調査についての短報を掲載。
- 国際学会 発表 2024/08
[ブラジルで開催された第8回国際種子散布学会](#)にて、ポスター&口頭発表を行った。
- 海外フィールドワーク調査 2024/08-2025/03 ※13
[マダガスカルにて](#)、動植物に関する7ヶ月間の研究調査を実施。
- 日本学術振興会 特別研究員DC1 採択 2024/09
- 講演・スピーチ 2024/06
[公益財団法人服部国際奨学財団 2024年度第1回服部奨学生研究発表会](#)にて講演。

王 培璐 早稲田大学大学院社会科学部研究科 博士後期課程地球社会論専攻 D3 第15期服部奨学生

- シンポジウムでの研究報告 2025/01
早稲田大学・長崎大学共催の、[第4回アジア人文社会科学フォーラム「新『東亜学』の課題ー「知のプラットフォーム」構築に向けて」](#)にて、研究報告を行った。

朽山 瑠南 一橋大学大学院社会学研究科 総合社会科学専攻修士課程 M2 第15期服部奨学生

- 日韓次世代学術フォーラム/発表者 2024/06
[国際学術大会](#)での口頭報告
- 梨花女子大学への交換留学 2024/08-2024/12

高井 彩圭 神戸大学大学院法学研究科（法科大学院）実務法律専攻 専門職3年 第15期服部奨学生

- 法務博士の学位取得 2025/03

株本 鮎凪 京都大学法学部 B3 第15期服部奨学生

- 学習支援およびその他イベントお手伝い 2024/04-2025/03
月に2回ある学習支援や季節ごとのイベント、その他清掃活動などのお手伝いを行った。

加藤 圭 名古屋市立大学医学部医学科 B6 第15期服部奨学生

- 医師国家試験合格 2025/03
- 成績優秀者表彰 2025/03
医学部内での6年間の成績による判定。

渡邊 茉弥 東京大学大学院医学系研究科 医学博士課程 外科学専攻 D4 第15期服部奨学生

- 学術誌 論文掲載 2025/01 ※14
再生医療学会の公式英文誌 Regenerative Therapyに、博士課程での研究内容をもとに執筆した論文が掲載。

尾崎 梨花 名古屋大学大学院人文学研究科博士前期課程 人文学専攻 M2 第15期服部奨学生

- 口頭発表・ポスター発表：歴史学研究会大会特設部会「パブリックヒストリーをめぐる探究対話・協働 ー葛飾区立石における歴史実践ー」 2024/05 ※15
[尾崎梨花「地域伝承と「語り」ー「歴史」が創造される過程に関する一考察ー」](#)
東京都葛飾区立石において、江戸時代から現代に至るまでの地域内の「語り」を調査し、現代に至るまで、地域の内外でさまざまに変容しつつ、連続と語り継がれ「歴史」となる様相を明らかにした。（論文：尾崎梨花「地域伝承と「語り」ー「歴史」が創造される過程に関する一考察ー」（『歴史学研究』1054、2024年、p18））
- 東海国立大学機構メイク・ニュー・スタンダード次世代研究事業 認定 2024/06
- 日本学術振興会 特別研究員DC1 採択 2024/09

青山 かのん 岐阜大学医学部看護学科 B3 第15期服部奨学生

- 喀痰吸引3号取得 2025/02



※8



※9



※10



※11



※12



※13



※14



※15



黒田 涼人 三重大学大学院工学研究科 博士前期課程 電気電子工学専攻 M1 第15期服部奨学生

- 学会ポスター発表：電気学会産業応用部門大会 2024/08
国内の[電気学会](#)にてポスター発表。
- 学会ポスター発表：The IEEJ international Workshop on Sensing, Actuation, Motion Control, and Optimization 2025/03
国際の[電気学会](#)にてポスター発表（予定）
- 能登震災ボランティア 2025/03
一般社団法人BOSAI Edulabが運営するユース災害ボランティア（予定）

松島 史弥 名古屋工業大学大学院工学研究科 博士前期課程 工学専攻電気・機械工学系プログラム M2 第15期服部奨学生

- 電気学会の研究会での口頭発表 2024/09
松島 史弥、黒谷 琉人、青木 睦、中村 勇太、Suresh Chand Verma、上田 勝久：
「特高系統におけるPCS無効電力制御を考慮したDeep Neural Networkによる電圧推定手法」、[令和6年電力技術/電力系統技術 合同研究会](#)
- 電気学会の電力・エネルギー部門（B部門）にて論文掲載 2024/09
松島 史弥、青木 睦、上田 勝久、Suresh Chand Verma、中津井 紳司：
「特高系統における機械学習を活用した電圧・無効電力制御手法の提案」、[電気学会論文誌B, Vol. 144, pp. 474-483](#)
- オープンアクセスの国際ジャーナルのMDPIに掲載 2025/01 ※16
Fumiya Matsushima, Mutsumi Aoki, Yuta Nakamura, Suresh Chand Verma, Katsuhisa Ueda, Yusuke Imanishi：
「Multi-Timescale Voltage Control Method Using Limited Measurable Information with Explainable Deep Reinforcement Learning」, [Energies 2025, 18\(3\), 653](#)

黒崎 望紗 東京大学大学院法学政治学研究科 専門職学位課程 法曹養成専攻 専門職3年 第15期服部奨学生

- 司法試験合格 2024/11
ロースクール在学中に令和6年司法試験合格

野田 彩乃 お茶の水女子大学大学院 博士後期課程 人間文化創成科学研究科 比較社会文化学専攻 D1 第15期服部奨学生

- 令和6年度お茶の水女子大学大学院生研究補助金 2024/04
将来、国際的に活躍が期待される若手研究者を育成する施策の一環として、博士後期課程学生に対し、補助金（研究費）を重点的に配分することにより、研究活動を支援。
- 明清史夏合宿 研究発表 2024/08
全国の明清時代専門の史学研究者が集まる合宿形式の学会・研究会

MA XIAOQI マシヨウキ 大阪大学生命機能研究科博士課程 生命機能専攻 D3 第15期服部奨学生

- 指導教官が主導するAMEDプロジェクトの参加者として、交換研究生の立場で名古屋大学において2年間の国内研究交流 2025/03
[遺伝的背景改善による発達障害に対する根治的治療法の基盤技術開発](#)

Brandon Bodenstein 東京外国語大学大学院総合国際学研究科 博士後期課程 共同サステナビリティ研究専攻 D3 第16期服部奨学生

- 学術誌論文掲載
 - Rites of Precarity: Immigrant Labor and the Illusion of Inclusion in Japan's Peri-Urban Regions (Social Science Japan Journal (SSJJ), 2025年掲載予定)
 - Navigating Precarity: Immigrant Workers and Hand-Cash Jobs in Japan's Peri-Urban Economy – Accepted with revisions, Journal of International Economics and Development (JIED), LSE Press, 2025
- 学会発表・パネル参加
 - The Migration Conference (TMC) 2024 にて研究発表
 - Neuchâtel Graduate Conference 2024 にてパネル登壇
- 大学での特別講義（ゲストレクチャー）
Temple University Japan (2024) にて「日本の周辺都市における労働と移民政策」に関する特別講義を実施
- 国際研究・フィールドワーク
日本の周辺都市における移民労働と手渡し賃金の実態に関する民族誌的フィールドワークを実施
メディア掲載・執筆 [The Quiet Strength of Japan's Friendship Associations in Supporting Immigrants \(Politics Section, 2024年9月掲載\)](#) ※17

ZHANG JIAXIN 名古屋工業大学大学院工学研究科 博士後期課程 工学専攻 D1 第16期服部奨学生

- 2024年度第1回日本語能力試験 N1合格 2024/07
- 日本基礎造形学会第35回長崎大会 口頭発表 2024/08 ※18
[水の造形特性による地域とワークショップの共創に関する研究 - 「水に親しむ」造形ワークショップの実践を通して -](#)
- EDRA56th (Environmental Design Research Association) 国際学会 ポスター発表が決定
2025年5月にカナダで開催されるEDRA56th国際学会に参加し、ポスター発表を行うことが決定した。本研究は、2024年度三重県河崎市におけるワークショップ実践活動を基盤とし、地域の親水環境特性を踏まえながら、河崎の水辺空間とワークショップ作品の環境色彩の関係性を探究することを目的としている。

四十坊 広大 京都大学大学院修士課程工学研究科 建築学専攻 M1 第16期服部奨学生

- JOGJA FIELD SCHOOL 2024 2024/07
インドネシアの古都ジョグジャカルタにて行われた[国際フィールドスクール](#)に参加し、ジョグジャカルタ中心市街の世界遺産指定に伴う都市・地域計画策定のための、フィールドワークによる実地調査と都市将来像の提案を行った。
- International Seminar on “The Challenges and Strategies on the Conservation and Management of World Heritage Site Buffer Zone” 2024/07
JOGJA FIELD SCHOOL 2024に伴って行われた[インタナショナルセミナー](#)に参加し、世界遺産登録地の周囲におけるバッファーゾーンの計画に関する国際的な戦略比較とマネジメント手法のプレゼンテーションを聴いた。
- 京都大学建築学科機関誌『traverse25』編集長 2024/04-2025/03 ※19
京都大学建築学科の機関誌である [「traverse25」](#)の編集長を務め、研究室や教員、学生から寄稿いただいたものを編集する活動を行った他、同時に25号の特集記事として、自身の研究テーマである「大学自治寮」の実態調査・取材を編集チームとして行い、既存メディアがこれまで踏み込んでこなかった部分を扱う、記録的記事を執筆した。
- 第25回若山牧水青春短歌大賞 大学生等及び一般部門 佳作 2025/02
2024年夏に自身が詠んだ短歌を、[第25回若山牧水青春短歌大賞](#)に応募し、28,760首の応募作品の中から入選作品として選ばれた。

嶋岡 瑠菜 東京大学大学院農学生命科学研究科 修士課程 農業・資源経済学専攻 M1 第16期服部奨学生

- ボランティア活動 2024/09-2025/01
[NPO法人Learning for all にて、ボランティアを行った。](#) 貧困家庭の子どもに居場所を提供し、放課後大人（私たちボランティアと、常駐スタッフ）と交流する活動。
- 学生広報スタッフ 2024/04-2025/03
東京大学農学部広報スタッフを務めた。主に[Instagramの運用](#)を担当し、運用方法の確立から素材集め、投稿文章の作成まで、学生スタッフ5名で協力して行った。
- 執筆活動 2023/04- ※20
[noteで執筆活動](#)
- 長期無償インターンシップ 2023/12-2025/03
NPO法人Piece of Syriaで長期インターンシップを行う。担当業務は「①海外ファンドレイジング」および「②広報活動」。①では、団体として初の海外からの資金調達に際して、主担当として進めた。現在資金調達のプラットフォーム（日本でいうキャンプファイヤー）への申請が完了。②では、SNSでの発信と、団体ホームページでの記事執筆。

岡本 隣 東京大学大学院総合文化研究科 修士課程 広域科学専攻相関基礎科学系 M1 第16期服部奨学生

- ワークショップ 口頭発表 審査員賞・オーディエンス賞 2024/07
[歴史家ワークショップ 第19回リサーチジョーケース 「Forgotten “Pineapple Lady”: Plant Cultivation and Gender in Early Modern Europe」](#)
- 国際セミナー 口頭発表 2024/10
[タイトル：Convulsions, Femininity and Obstetrics: From the Perspectives of Early Modern Midwives](#)
- シンポジウム パネリスト 2024/11
[2024年度科学史学会生物学史分科会シンポジウム](#) 「ジェンダー、コロニアリズム、アグノトロジーと科学史——ロンダ・シービンガーの著作をめぐって」
登壇者：岡本隣（東京大学）“Women in Colonial Botany: From the Case of Agnes Block”
- 学術誌 共著論文掲載 2025/01 ※21
共著論文（査読付き）：鶴田想人・村瀬泰菜・岡本隣 [「有徳な無知とは何か——「有徳さ」の基準と無知のガバナンスへの応用可能性」](#)【科学史研究】
- 学術書 分担執筆 2025/02
[「有徳な無知」の項目執筆、鶴田想人・塚原東吾編「無知学への招待」、明石書店。](#)

Vabulnik Mariia 東京大学大学院教育科学研究科 博士後期課程 総合教育科学専攻 心身発達科学専修 臨床心理学コース D1 第16期服部奨学生

- 学会発表（ポスター／口頭） 2024/09
Vabulnik, M., Hibi, M., Shimoda, M., Kimura, Y., Aoki, Y., Kurosawa, T., & Takizawa, R. (2024) Gender-specific pathways from childhood experiences to adult mental health. [54th Annual Congress of the European Association for Behavioural and Cognitive Therapies, Belgrade, Serbia](#). (poster)
- 学会発表（ポスター／口頭） 2024/11
Vabulnik, M., Shimoda, M., Hibi, M., Kimura, Y., Aoki, Y., Kurosawa, T., & Takizawa, R. (2024). Navigating adversity: childhood bullying, protective experiences, and adult mental health outcomes. [24th WPA World Congress of Psychiatry, Mexico City, Mexico](#). (poster)
- 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要 2025/03 (予定)
Vabulnik Mariia・滝沢龍 (2024).トラウマティックストレスに対する心理介入—既存のガイドラインと新たな取り組み—

濱田 澪水 早稲田大学大学院社会科学研究科 博士後期課程 地球社会論専攻 D1 第16期服部奨学生

- 「日本学」シンポジウムにて口頭発表@上海外国語大学 2025/03
「戦後日本の平和教育思想—1950年代の『教育』言論を手がかりに—」口頭発表
- 浙江工商大学にて語学・文化留学 2025/03
- HSK5級取得 2024/12
- 早稲田大学大学院博士後期課程若手研究者養成奨学金 2024/09
- 毎日新聞デジタルにて執筆記事掲載 2024/08
[「学校で教わらない引き揚げ問題「済生」として語り継ぐ91歳」](#)というテーマで、取材・執筆。



※16



※17



※18



※19



※20



※21



江南 沙里菜 東京大学大学院医学系研究科 保健師教育コース 健康科学・看護学専攻 保健師教育コース M2 第16期服部奨学生

- 国際学会でのポスター発表 2024/07
東京大学で開催された国際学会「UTokyo Nursing International Conference 2024」において能登半島地震ボランティア活動の報告をポスターで行った。
Sarina Enami, Yui Shimoyama, Chikako Honda, Hiroshige Matsumoto, Akari Maeda-Suzuki, Satoru Yoshie, Mari Ikeda, Noriko Yamamoto-Mitani, Kyoko Yoshioka-Maeda. Report on Health Volunteer Activities by Students to A City in Ishikawa Prefecture after the Noto Peninsula Earthquake. UTokyo Nursing International Conference 2024. July 5, 2024. Tokyo, Japan.
- 国際学会でのポスター発表 2025/02
韓国で開催された国際学会において「地域で暮らす婦人科系がん患者の困りごととQOLの関連探求」についてポスター発表を行った。
Sarina Enami, Yui Shimoyama, Hiroshige Matsumoto, Chikako Honda, Akari Maeda-Suzuki, Mari Ikeda, Kyoko Yoshioka-Maeda. Identifying the challenges and quality of life of community-dwelling individuals with female-specific cancer: A secondary analysis. 28th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) conference. February 13-14, 2025. Seoul, Korea.
- 民間の助成金団体より研究費を獲得 2024/06
競争的資金獲得：令和6年度公益財団法人政策医療振興財団 助成金額：683,500円
「緊急入院を経験した高齢患者へのAdvance Care Planning実践に関する急性期病院看護師を対象としたインタビュー調査」
- 教科書の分担執筆 2024/08
「エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図 第3版」(「末梢動脈疾患(PAD)・下肢動脈疾患(LEAD)」の章を担当)
- 文京区がんに関するアンケート調査報告書 2024/12
文京保健所健康推進課の保健師とともに共同研究を実施し、その報告書を区のHP上で公開した。
- 文京保健所健康推進課と共同で「がん患者療養資源マップ」を作成 2024/06 ※22
文京区内でがん患者さんが活用できる資源について一覧にまとめた。
- 日本家族看護学会国際交流委員会企画：「第3期Small group活動」 2025/02
国際交流企画においてSmall groupとして小児の意思決定支援事例に関する発表を英語で行った。
- 第111回保健師国家試験合格 2025/03
- 国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)の次世代研究者挑戦的研究プログラム(SPRING)採択 2025/03
東京大学の「グリーントランスフォーメーション(GX)を先導する高度人材育成」プロジェクト(SPRING GX)

山本 彩加 神戸大学大学院農学研究科 博士課程前期課程 生命機能科学専攻応用生命化学 M1 第16期服部奨学生

- 若手フロンティア研究会でのポスター発表 2024/12
学内で行われた研究発表会にポスター発表で参加。
- 特許出願 2024/10
「サリチル酸類の製造方法」という発明の名称で、神戸大学独自での特許出願を行った。

松島 世樹 大阪大学工学部 電子情報工学科情報通信工学科目 B2 第16期服部奨学生

- 大学食堂横の壁面緑化活動 2024/04-2024/09
所属する環境サークルのメンバーと共に大阪大学のかさね食堂のスペースで、壁面緑化活動としてゴーヤの定植、収穫、撤去まで行った。
- 稲川河川敷のゴミ拾い 2024/11
2024年11月23日に所属する環境サークルで池田くれはロータリークラブ、大阪大学工学研究科宇山研究室の方々と共同で、猪名川河川敷を掃除するイベントを主催。
- 大阪大学豊中キャンパス、石橋駅周辺のゴミ拾い 2024/04-2025/03
所属する環境サークルのメンバーと共に大阪大学豊中キャンパス、石橋駅周辺のごみ拾いを月に2回程度継続して行った。
- 箕面祭りでのハーバリウム販売・体験など 2024/10
2024年10月5日、6日に開催された箕面まつりに、所属する環境サークルを通して参加し、ハーバリウム販売・体験・ごみステーションの管理などのボランティアを行った。
- 子供向けワークショップの開催 2024/05・2024/08・2024/12
所属する環境サークルで、吹田市のくるくるプラザの「くるくるフェスタ」というイベントにおいて、5月、8月、12月と3回ブースに参加。
主に小学生を対象としてワークショップを行った。

築地 夏海 京都大学大学院理学研究科 博士後期課程 理学研究科生物科学専攻動物学系 D1 第16期服部奨学生

- 学内の理学研究科においてポスター発表 2024/11
築地夏海 2024「京都市動物園における飼育ゾウの社会関係・ゾウと飼育者の相互行為研究に向けての試論」京都大学理学共創イノベーションコンソーシアム 2024 第3回研究交流会
- 書籍出版物 フィールドワーク調査に関するエッセイを寄稿 2025/03 ※23
築地夏海 2025「ゾウを嗅ぎ、ゾウに嗅がれる」「[「ザ・フィールドワーク：129人のおどろき・とまどい・よろこびから広がる世界」](#)」生態人類学会編、京都大学学術出版会
- 研究費採択(個人研究) 2024/04
[生き物文化誌学会さくら基金](#)(研究題目：「アジアゾウ保全施設におけるゾウ個体間の社会関係と、ゾウ・ヒト間の相互行為との関連の検証」) 研究費30万円
- 研究費採択(個人研究) 2024/06
[京都大学大学院教育支援機構 海外渡航助成金](#)(研究題目：アジアゾウと飼育者との異種間相互行為分析に向けての予備観察) 研究費24万円



※22



※23



※24



※25



※26

Park Seonkyu 名古屋大学理学部物理学科 B4 第16期服部奨学生

- 名古屋大学理学部長顕彰 2025/03
名古屋大学理学部の4年生で、特に学業優秀な学生に授与される[「理学部長顕彰」](#)を受賞

松永 理沙 名古屋工業大学大学院工学研究科 博士前期課程 工学専攻創造工学プログラム M2 第16期服部奨学生

- 15th Poverty and Social Protection Conference [PSPC2025] 口頭発表 2025/03
- 研究インターンシップ 2024/10-2025/01
Universitat Politècnica de Valènciaにて研究インターンシップ 異世代ホームシェアの発祥である、スペインで研究を行う。
- スペイン バレンシア州での災害ボランティア活動 2024/11
留学中に洪水が発生し、現地でのボランティア活動に参加。

吉田 瑠那 愛知県立大学大学院国際文化研究科 日本文化専攻(博士前期課程) M1 第16期服部奨学生

- 2024年度 歴史地理学会第67回大会 口頭発表 2024/05
立命館大学衣笠キャンパスにて、卒業論文の内容をもとに、「戦後復興期に建設された「岡ビル百貨店」の特徴と暮らし」というタイトルで30分の発表・質疑応答を行った。

田中 日香里 神戸大学大学院国際文化学研究科 博士前期課程 文化相關専攻 M1 第16期服部奨学生

- 服部国際奨学財団 関西Alumni会 活動報告 2025/02
- トルコでの予備調査 2025/02-2025/03
2025年夏からの本調査に向けた準備(所属先の教授との手続きの確認、被災地の視察、現地資料収集など) [写真は資料収集のために訪問したアンカラ民族学博物館](#)
- 松下幸之助記念志財団 研究助成 通過 2025/02
海外での現地調査を必要とする研究助成の通過
- 服部国際奨学財団 読書部運営 2024/10-
Instagramでの書籍紹介の執筆・投稿、運営ミーティング。

花田 彩愛 京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻 専門職2年 第16期服部奨学生

- 日本疫学会 ポスター発表 2025/02
[日本疫学会](#)において研究成果のポスター発表を行った。

岸 ふみ 東京大学教養学部文科三類 B2 第16期服部奨学生

- 2024年度東京大学・ソニー社会連携講座Ignite Your Ambition にてGrand Prixを受賞 2024/12
東京大学・ソニーの社会連携講座である[「Ignite Your Ambition」](#)に参加 ※24
- 第十回高校生国際シンポジウム 進路座談会 登壇 2025/02
第7回高校生国際シンポジウム化学部門にて最優秀賞を受賞したことをきっかけに、主催者である岡本尚也さんからご依頼を受け、[シンポジウム内](#)の進路座談会に登壇。

冠語情 東京大学大学院教育学研究科 修士課程 総合教育科学専攻 教育社会科学専修 比較教育社会学コース M1 第16期服部奨学生

- 【海外実習】グローバル・リーダー育成、欧州研修プログラム(東京大学教育学研究科・教育学部) 2025/02
東京大学教育学研究科教育学部に選ばれ、部局間協定校ストックホルム大学と11回目の学生交流プログラムとして、2月15日から2月22日にかけてストックホルム大学等を訪問する[「グローバル・リーダー育成、欧州研修プログラム」に参加](#)。

村松 泰知 東京大学大学院人文社会系研究科 修士課程 基礎文化研究専攻 死生学応用倫理専門分野 M1 第16期服部奨学生

- 学会 口頭発表 2024/07 ※25
[「生と概念：マクダウェル・ドレイファス論争から概念の存在論へ」](#) 哲学若手研究者フォーラム、2024年7月13日 - 2024年7月14日
- 学術誌 論文掲載 2025/02 ※26
[村松泰知 \(2025\)「概念の位置づけを考えるーマクダウェル・ドレイファス論争から生態学的言語論を経てー」](#)『新進研究者 Research Notes』(8)

廣瀬 イリヤス 京都大学大学院地球環境学舎 修士課程環境マネジメント専攻 M1 第16期服部奨学生

- 宮崎県綾ユネスコエコパークにおける3ヶ月間のインターン研修 2024/09-2024/12
所属する大学院のカリキュラムでは3ヶ月以上の中長期インターンシップが義務付けられており、自然共生について学ぶため、宮崎県綾町役場のユネスコエコパーク推進室で約3か月間研修を行いました。[町の広報誌 \(12月号\)](#)・[宮崎日日新聞 \(2024/12/5\)](#)にて記事掲載。



加藤 辰樹 大阪大学大学院基礎工学研究科 博士前期課程 システム創成専攻 M1 第16期服部奨学生

- 学会 ポスター発表 2024/05
[ロボティクス・メカトロニクス 講演会 2024 in Utsunomiya](#)にて、ポスター発表を実施。
- 競技会チーム出場 優勝 2024/05 ※27
[IEEE International Conference on Robotics and Automation](#) (米国電気電子学会「ロボット工学とオートメーションに関する国際会議」)で開催されたコンペティションの一種である[Food Topping Challengeの唐揚げ部門](#)で優勝。
- ロボット関連のボランティア活動 2024/04-2024/05、2024/07-2025/02 ※28
[小中学生を対象としたロボット教室](#)でボランティアコーチとして貢献、また、[ロボット競技会](#)の審判員として大会の補助にも従事。

芝田 晴野 奈良女子大学学生生活環境学部 文化情報学科生活化学コース B2 第16期服部奨学生

- 「ならキャン」広報雑誌に掲載 2025/02
[奈良市発行の全国の高校生向けの冊子](#)にて奈良女子大学の魅力を発信するアンバサダーに選任。

石川 舞結 お茶の水女子大学大学院 博士後期課程 人間文化創成科学研究科ライフサイエンス専攻 D1 第16期服部奨学生

- 日本サンゴ礁学会学術大会若手発表賞「最優秀ポスター賞」受賞 2024/11 ※29
[日本サンゴ礁学会第27回大会](#)にて「最優秀ポスター賞」受賞。[学会ニュースレターに掲載](#)。
- G-RIPS Sendai 2024に参加・IHチームのプロジェクトマネジャーを務めた 2024/06-2024/08 ※30
[UCLAのIPAM主催で毎年開催されている長期研究インターンシップ](#)。完全に英語で二ヶ月間、アメリカの学生とともに企業の課題に取り組んだ。Project 02 IHのチームで学生代表のProject Managerとして研究した。[プロジェクト詳細・最終報告書](#)
- 小型船舶操縦免許(2級)取得 2024/11
- お茶の水女子大学の次世代研究者挑戦的研究プログラム (SPRING) 「『革新』×『共創』で未来を拓く女性博士育成プロジェクト」に採用 (予定) 2025/03
次世代研究者挑戦的研究プログラムは、博士後期課程学生による挑戦的・融合的な研究を支援し、優秀な博士人材が様々なキャリアで活躍できるように研究力向上や研究者能力開発を促す事業に採用 (予定) 正式決定は2025/04 [「『革新』×『共創』で未来を拓く女性博士育成プロジェクト」](#) 期間：2025.04-2027.03
- エスベック地球環境研究・技術基金 採択 2024/08-2025/08
環境問題の克服に寄与することを目的として、地球環境保全のための調査研究や技術開発に対して資金的援助を行う基金。[エスベック地球環境研究・技術基金](#)

伊豆野 美結 お茶の水女子大学理学部生物学科 B4 第16期服部奨学生

- 日本藻類学会第49回大会 ポスター発表 (予定) 2025/03 ※31
[日本藻類学会は1952年に設立された歴史のある学会](#) これまでの研究内容・成果により学部4年生でありながら[ポスター発表](#)の機会をいただくことができた。
- 令和6年度第2回日本語検定 準1級認定 2024/11

Arselin Jeanne 岐阜大学大学院連合農学研究科 生物生産科学専攻 D1 第16期服部奨学生

- フランスの修士課程 (M2) を修了 2024/06
修士研究では、飛騨和牛のと畜場滞在中のストレス行動を分析。
- 岐阜大学博士課程 (D1) に進学 2024/10
乳牛の嗅覚的環境エンリッチメントが行動およびストレスに与える影響を研究開始。
- ウェブサイト作成 2024/12
外国人学生向けに、フランス・パリ近郊の科学研究室でのインターンシップを紹介する[ウェブサイトを作成](#)し、取り組みが評価され賞を受賞。
- 北海道での現場実験 2025/03-
乳牛の行動・ストレスに対する嗅覚刺激の影響をより詳細に検証する。

Hyukjin KWON 東京科学大学大学院修士課程 理学院 物理学系 (物理学コース) M2 第16期服部奨学生

- The 7th workshop on many-body correlations in microscopic nuclear model, Niigata (口頭発表) 2024/10
[タイトル：Mass-Radius Relation of Rotating Neutron Stars Calculated by KEH Method](#)
内容：KEH法というアインシュタイン方程式を数値的に計算する方法を使って中性子星の質量、半径関係を計算する方法について紹介
- RCNP-CENuM-OMEG Symposium on Nuclear Structure, Reaction, and Astrophysics: NuSRAP2024, Osaka (口頭発表) 2024/12
[タイトル：Constraining of Nuclear Matter Equation of States with Rotating Neutron Star](#)
内容：KEH法というアインシュタイン方程式を数値的に計算する方法を使って原子核状態方程式を精密に制限する方法について紹介する。
- Nucleosynthesis and Evolution of Neutron Stars, Kyoto (ポスター発表) 2025/01
[タイトル：Constraining of Nuclear Matter Equation of States with Rotating Neutron Stars](#)
内容：回転する中性子星から原子核状態方程式を制限する方法について紹介し、核物質物理量と回転影響の関連性について考察する。
- 日本物理学会2025年春季大会、Online (口頭発表予定) 2025/03
タイトル：Komatsu-Eriguchi-Hachisu法を用いた高速回転する中性子星の構造計算
内容：中性子星が回転する場合内部構造がどうやって変化するかについて発表する。
- Third Workshop on Density Functional Theory: Fundamentals, Developments, and Applications (DFT2025), Kobe (ポスター発表予定) 2025/03
タイトル：Self-Consistent Field Method for the Structure of Rotating Neutron Stars with DFT-Rooted Equation of State
内容：回転する中性子星の構造を計算するSelf-Consistent Field Methodについて紹介する。

Su Lae Tun 静岡大学人文社会科学部経済学科 B2 第16期服部奨学生

- 「きらめき未来塾」ボランティア活動 2024/09
「きらめき未来塾」という高校生が塾長、起業家、文部科学省の元官僚と元日銀総裁の「夢」に関する講演を聞き自分の未来と夢について考えるのをサポートした。[\(新聞記事あり\)](#)
- 2024年“江蘇杯”中国語スピーチコンテスト(中部東海地区大会) 2等賞受賞 2024/11
- TOEIC L&R 908 点取得 2024/07
- Asia Bridge Programインタビュー 2024/09 ※32
静岡大学Asia Bridge Programの告知用にインタビューを受けた。[\(YouTube動画\)](#)

小川 日南 静岡大学大学院教育学研究科 教育実践高度化専攻 小学校教員免許取得プログラム M3 第16期服部奨学生

- 災害ボランティア参加 2024/08
災害コースボランティア基金が運営する[「能登半島地震災害ボランティア」](#)に参加。
- 静岡市立中央図書館主催 防災×妖怪ワークショップ「BOSAIようかいを調査せよ！」を企画・実施 2024/08
小学生を対象に、防災紙芝居やハザードマップを使い、防災や妖怪に親しみやすいワークショップを企画。
- 阪神淡路大震災の経験と教訓を未来に引き継ぐために始まった「1.17防災未来賞」(ぼうさい甲子園)で「ぼうさい大賞」を受賞 2025/02
所属する静岡大学教育学部藤井基貴研究室の活動が、令和6年度「1.17防災未来賞(兵庫県等主催ぼうさい甲子園)」で「ぼうさい大賞」を受賞。
- メディア掲載(テレビ) 2024/11 ※33
[2024/11/16放送 静岡放送\(SBS\) ライブしずおか「わたしの防災」](#) 「[なんかようかい?] 河童や鬼が教える災害の教訓 大学生が民話題材に紙芝居制作」

大野 哲平 横浜国立大学大学院理工学府博士課程前期 化学・生命系理工学専攻 M1 第16期服部奨学生

- PRiME 2024(国際学会)でポスター賞受賞 2024/10 ※34
2024年10月6日(日)から11日(金)に[米国ハワイ州のハワイ・コンベンション・センターにて行われたPrime2024](#)にて約1600件の講演数の中、[3rd poster awardを受賞](#)。
- 日本化学会電気化学ディビジョン化学電池材料研究会第五十二回講演会にてポスター賞受賞 2024/08
神奈川県伊豆市で行われた、日本化学会電気化学ディビジョン化学電池材料研究会第五十二回講演会にてポスター賞を受賞。

大羽 志歩 奈良女子大学大学院人間文化総合科学研究科 博士前期課程 人文社会学専攻 M1 第16期服部奨学生

- 奈良女子大学史学会での例会発表 2024/07
- 奈良女子大学史学会『寧楽史苑』原稿執筆 2025/03

櫻井 春誓 大阪大学大学院基礎工学研究科 博士前期課程物質創成専攻 M1 第16期服部奨学生

- 第14回イオン液体討論会 ポスター発表参加・優秀ポスター賞受賞 2024/11
自身の研究成果を[福島県郡山市で行われた学会](#)にて発表した。
- 電気化学会第92回大会 口頭発表 (予定) 2025/03
- 日本化学会第105春季年会 ポスター発表 (予定) 2025/03



※27



※28



※29



※30



※31



※32



※33



※34



公益財団法人服部国際奨学財団 役員名簿

2025年3月1日現在

・理事長

瀬田 大

株式会社ユー・エス・エス 代表取締役社長兼最高執行責任者（COO）

・理事

井出 元

麗澤大学大学院学校教育研究科 特別教授 学長補佐 研究科長

服部 豊

服部豊法律事務所 所長 弁護士

劉 傑

早稲田大学社会科学総合学院 教授

細田 和美

細田和美税理士事務所 所長 税理士

板坂 克則

トヨタ輸送株式会社 元代表取締役社長

服部 加菜

株式会社華蓮 代表取締役

中村 佳代

日興アイ・アール株式会社 代表取締役社長

・監事

佐藤 陽一郎

太陽グラントソントン税理士法人 理事長

溝口 直男

株式会社岐阜銀行 元常勤監査役

・評議員

瀬田 衛

株式会社服部モータース 代表取締役

服部 健二

ホリカワ運送株式会社 代表取締役社長

花井 淳

有限会社花井 代表取締役

渡邊 珠子

いつき会計労務事務所 代表

青木 久和

耕孝株式会社 代表取締役

馬場 三紀子

馬場社会保険労務士事務所 特定社会保険労務士

豊泉 裕

医師

・選考委員

青木 紀

北海道大学 名誉教授

井出 元

麗澤大学大学院学校教育研究科 特別教授 学長補佐 研究科長

劉 傑

早稲田大学社会科学総合学院 教授

牧野 絵美

細田和美税理士事務所 税理士

梶谷 真司

東京大学大学院総合文化研究科 教授

青木 睦

名古屋工業大学大学院工学研究科 准教授



服部国際奨学財団 創設者
株式会社ユー・エス・エス 創業者
服部 太

次代を担う学生のために私財を使いたい。
創設者の想いが返済不要の奨学金を生みました。

服部国際奨学財団は、中古車オークション事業で成功を収めた
実業家・服部 太（1936-2011）が、未来を担う人材を育成す
るため、優秀な学生に対する奨学・援助と、諸外国との友好親
善を目的に私財を投じて設立した公益財団法人です。



公益財団法人
服部国際奨学財団



名古屋大学 全学教育棟1階
服部ホール HATTORI HALL
2019年10月よりネーミングライツ継続中



名古屋大学 全学教育棟2階
服部ラウンジ HATTORI LOUNGE
2024年4月よりネーミングライツ継続中



公益財団法人
服部国際奨学財団
Hattori International Scholarship Foundation

[公式サイト▶](#)



[note▶](#)



2025年03月31日発行
公益財団法人服部国際奨学財団
名古屋市長瀬区檀溪通5-21-2